ASICS CSR REPORT 2010

*sound **mind** sound **body***

株式会社アシックス

グローバルなものづくり企業として社会的責任を果たします。

スポーツ用品メーカーとしての使命

2009年7月、アシックススポーツミュージアムを開設しました。

これは、創業60周年を機に、ものづくりを通しての社会貢献を目指した先人の思いとこれまでの技術を振り返り、未来を創造する青少年の育成と当社事業の持続的発展を願ってのものです。

おかげさまで初年度は当初の予想を上回る人数の皆様に来館していただき、当社の思いに触れていただきました。

当社は、故・鬼塚喜八郎が青少年の育成のため「健全な身体に健全な精神があれかし」を哲学に創業したスポーツ用品メーカーです。

スポーツや健康への人々の意識の高まり、当社事業自体のグローバル化など、ステークホルダーの皆様のスポーツ用品メーカー及び当社への期待も大きくなってきております。

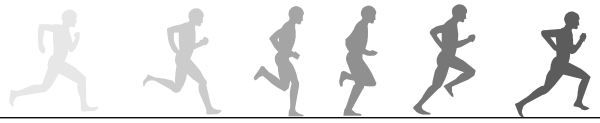
その期待に応えるべく、創業の哲学に立ち返り、事業活動のあらゆる場面で、当社の使命と役割－社会的責任－を認識しなければならないと決意を新たにしております。

私たちの基本姿勢は、製品・技術・サービスで世界の人々とその社会に貢献することです。当社事業が人々に役立ち、そこで得た適正な利益を更に事業を通じて還元する。このサイクルを回すことで、社会も当社も持続的に発展できるのです。

ＣＳＲの優先課題への取り組み

アシックスは、全社経営戦略「アシックス・チャレンジ・プラン」で当面取り組むべきCSR課題を掲げて経営に当たっております。

ものづくりを生業とする当社にとって、社会に役立つヒット商品を生み出すこと、そして品質と安全を維持することは欠くことのできないものです。おかげさまで、製品安全に真摯（しんし）に取り組む姿勢を評価していただき、2007年に引き続いて2009年も経済産業省から製品安全対策優良企業として表彰されました。しかし、一方でリコール（自主回



収）が発生しております。再教育と評価ルールの徹底で再発の防止に努めたく考えております。

また、地球温暖化防止とそのためのCO_2排出量の削減が世界的な課題となっている中、当社の企業活動並びにサプライチェーン全体でのCO_2排出量の把握と削減、及び省資源や再資源化などに配慮した環境配慮型商品の開発は、持続的発展が可能な社会の実現に向け当社に与えられた使命です。

2010年度は、環境活動のグループ全体での推進を図るほか、いよいよカーボンフットプリントを明記した商品の市場投入を開始します。

さて、私たちが世の中に送り出すその商品を考える場合、携わる人にも思いをはせる必要があります。私たちの商品はアシックスグループ内だけではなく国内外の生産委託先の工場でも作られています。私たちは、現地の法令や習慣とILOなどによる国際的な労働基準を順守・尊重し、委託先とともに発展できる関係を構築する必要があります。2004年に人権保護団体が各メーカーの工場の労働環境を問題視して以来、コンプライアンスとリスクマネジメントの観点から、工場での労働環境を監査し向上させるためのチームを設置しておりますが、更に工場側とともに取り組む研修・教育活動を充実させ、取り組みの強化を図ります。

メーカーならではの取り組みの一方では、社会の一員として企業が成り立つための課題にも努めなければなりません。

日本版SOX法に求められるまでもなく、内部統制に代表されるコーポレート・ガバナンスの水準の向上は企業にとって必須の要件です。グループに関する内部統制報告書の作成、リスクの抽出と評価、業務管理プロセスの明確化など、財務報告の信頼性確保や統制体制の水準の向上に努めておりますが、今後も統制強化に向け、グループ全体の意思決定や業務プロセス等の維持管理体制を構築していきます。

個人情報管理も業務の遂行上おろそかにできません。プライバシーマーク取得企業としてこれまでどおりマネジメントシステムの維持・向上を図るほか、今後はお客様と接する機会の多い営業部門に特に注力して管理の強化に努めます。

どんな戦略やしくみを作るにしても、その成否は「人」が握っています。

内部統制や各マネジメントシステムの確実な推進のために、コンプライアンスと職務権限についての社員教育を強化します。

また、人材の活性化に向け、例えば若手社員の海外研修制度なども充実させていきます。

メンタルヘルス面の支援、育児・介護を支える制度の整備などで、働きやすく成果を出せる職場環境の提供も企業にとっては重要な施策です。

特に、2007年から取り組んでいる労働時間管理の総合プログラムは、一定の成果を上げていることから、2010年は業務効率の改善に重きを置いた第二段階に移ります。

業務効率の改善がスピードを生み、それによって生まれるゆとりがワーク・ライフ・バランスの向上につながります。何よりそのスピードは、競争力の向上にも直結するものと確信しております。

CSR専任部署を設けて6年目、当レポートも6号になります。

これまでもCSR経営を掲げ、各部門はそれぞれの分野で取り組んできました。しかし、まだそれぞれの部分最適で終わっている面も見受けられます。

今後は、すべての部門の取り組みが有機的につながり、全社の経営マネジメントのあらゆる場面と段階が自ずとCSRになっている、そういう企業にし、創業哲学「健全な身体に健全な精神があれかし」の実現に更に近づくよう努めたいと考えております。

これまで以上にスピードを上げてまい進する所存ですので、ご理解とご支援をお願い申しあげます。

代表取締役社長

尾山 基

事 業 戦 略

アシックス・チャレンジ・プラン２０１０

アシックスは、連結売上高3,000億円の早期達成を目指し、2006年に全グループの中期経営戦略「アシックス・チャレンジ・プラン（ACP）」を策定しました。
現在も、外部環境に迅速に対応するためプランを毎年見直しながら、グローバルでの更なる成長・拡大と、それによる目標達成に向けてチャレンジしています。

基本戦略

連結売上高3,000億円を早期に達成するために2010年１月から2011年３月までの基本戦略を以下のとおり定める。

1. 事業領域（ドメイン）

アスレチックスポーツ事業領域
スポーツライフスタイル事業領域
健康快適事業領域

2. 全社基本戦略

（1）重点戦略

（1）コア事業であるランニング事業を更に強化拡大し、世界4極体制（日本、米州、欧州※、アジア・パシフィック）のもと、各市場での競争優位性を確立し、持続的成長を目指す。
※中近東・アフリカを含む

（2）アパレル事業をグローバルで拡大する。また世界的な健康志向に相応する商品カテゴリー（ウオーキング、フィットネス等）をランニング事業と連動させ強化する。

（3）成熟市場では、アスレチックスポーツの更なる深耕と、アシックスの技術資産を活用した新規商品カテゴリーの創造に努める。

（4）経営・事業・業務プロセス全般を徹底的に見直し効率的運営を行い、全社の生産性を向上させる。

（5）グループ内の既存事業の強化・補完のために他社との連携、M&Aを行い戦略的に事業を拡大する。

（6）地球温暖化等環境対策、CSRのためにグループとして積極的に取り組み社会に貢献する。

（2）個別基本戦略 （以下に掲げる「４つの強化」の継続的実行）

（1）ブランド力の強化（ブランド戦略）

世界市場で「アシックス」及び「オニツカタイガー」の二大基幹ブランドのブランド力を強化するために、アシックスグループ全体で効率的かつ効果的に経営資源を配分し、積極的なマーケティング活動を実行する。

（2）製品力の強化（商品戦略）

①高付加価値製品の創出
②企画力の強化
③品質管理体制の強化
④オニツカタイガーの強化
⑤コスト競争力の強化
⑥環境配慮型製品・材料の開発
⑦次世代事業の開発

（3）販売力の強化（販売戦略）

①自主管理売場の積極的拡大
②新興国での販売の強化及び拡大

（4）組織力の強化（グループ戦略・人材戦略）

①グループ力の強化
②収益性及び資本効率経営の強化
③CSR・コーポレートガバナンス・内部統制の強化
④世界視点での人財（人材）の育成・採用の強化

GRI「サステナビリティ・レポーティング・ガイドライン2006（第3版）」標準開示対照表

報告事項			関連ページ
1	1.1	組織にとっての持続可能性の適合性と、その戦略に関する組織の最高意思決定者（CEO、会長またはそれに相当する上級幹部）の声明	p1～p2
2	2.1	組織の名称	表紙
	2.2	主要なブランド、製品および／またはサービス	p3
	2.3	主要部署、事業会社、子会社および共同事業などの組織の経営構造	p4
	2.4	組織の本社の所在地	p4、裏表紙
	2.5	組織が事業展開している国の数および大規模な事業展開を行っている、あるいは報告書中に掲載されているサステナビリティの課題に特に関連のある国名	p4
	2.6	所有形態の性質および法的形式	
	2.7	参入市場（地理的内訳、参入セクター、顧客／受益者の種類を含む）	p3
	2.8	報告組織の規模	
	2.9	規模、構造または所有形態に関して報告期間中に生じた大幅な変更	
	2.10	報告期間中の受賞歴	p11
3	3.1	提供する情報の報告期間（会計年度／暦年など）	p4
	3.2	前回の報告書発行日（該当する場合）	
	3.3	報告サイクル（年次、半年ごとなど）	p32
	3.8	共同事業、子会社、リース施設、アウトソーシングしている業務および時系列でのおよび／または報告組織間の比較可能性に大幅な影響を与える可能性があるその他の事業体に関する報告の理由	
	3.10	以前の報告書で掲載済みである情報を再度記載することの効果の説明、およびそのような再記述を行う理由（合併／買収、基本となる年／期間、事業の性質、測定方法の変更など）	
	3.11	報告書に適用されているスコープ、バウンダリーまたは測定方法における前回の報告期間からの大幅な変更	
	3.12	報告書内の標準開示の所在場所を示す表	p4
4	4.1	戦略の設定または全組織的監督など、特別な業務を担当する最高統治機関の下にある委員会を含む統治構造（ガバナンスの構造）	p28
	4.2	最高統治機関の長が執行役員を兼ねているかどうかを示す（兼ねている場合は、組織の経営におけるその役割と、このような人事になっている理由も示す）	
	4.3	単一の理事会構造を有する組織の場合は、最高統治機関における社外メンバーおよび／または非執行メンバーの人数を明記する	p28
	4.4	株主および従業員が最高統治機関に対して提案または指示を提供するためのメカニズム	p28
	4.14	組織に参画したステークホルダー・グループのリスト	
	4.15	参画してもらうステークホルダーの特定および選定基準	
5	5	経済	p33
		環境	p12～p19
		労働慣行とディーセント・ワーク（公正な労働条件）	p23～p24
		人権	p7～p8
		社会	
		製品責任	p9～p11

1 戦略及び分析
2 組織のプロフィール
3 報告要素
4 ガバナンス、コミットメント及び参画
5 マネジメント、アプローチ及びパフォーマンス指標

2010年版の編集方針

2009年はアシックス創業60年の記念の年でした。人間で言えば還暦に当たります。先達が築いてきた歴史を振り返り、それを糧にしながら未来の持続的発展を目指している私たちの姿をお見せするため、「アシックスの理念と未来への展望」を特集テーマとしました。

アシックスの原点について発信するとともに、ステークホルダーに報告すべきことをGRI（グローバル・レポーティング・イニシアチブ）の基準を参考にして記載するよう努めました。

対象範囲

原則として株式会社アシックスを対象にしておりますが、グループ会社の活動内容も一部記載しています。

対象期間

2009年度（2009年4月1日～2010年3月31日）

参考にしたガイドライン

GRI「サステナビリティ・レポーティング・ガイドライン2006（第3版）」

※GRI（グローバル・レポーティング・イニシアチブ）：オランダに本部を置くNGO。国連環境計画（UNEP）の公認協力機関。

Index

トップコミットメント	01
事業戦略	03
特集：アシックスの理念と未来への展望	05
CSRの基本的な考え方	07
安全品質と顧客満足	09
環境保全	12
サプライチェーン管理	20
従業員満足	23
社会貢献	25
個人情報管理	27
コーポレート・ガバナンス	28
事業概要	33
編集後記	34

会社概要（2010年3月31日現在）

資本金　239億72百万円
従業員　1,330人（連結:5,357人）
事業所
本社（神戸市）※
支社:関東（東京都墨田区）・関西（尼崎市）
研究所・研修所:スポーツ工学研究所（神戸市）※
海外駐在員事務所:広州（中国）・台湾
子会社及び関連会社
国内:23社
海外:23社
（アメリカ・ヨーロッパ・オーストラリア・中国・台湾ほか）
※の事業所はISO14001認証を取得しています。

アシックスホームページ
日本
http://www.asics.co.jp/
グローバル
http://www.asics.com/index.html

特集

アシックスの理念と未来への展望

スポーツ用品メーカーのアシックスにとって、ものづくりを通じて社会に貢献することは、創業当時からの思いであり使命です。創業60周年記念事業の一環として2009年に設立したアシックススポーツミュージアムはその象徴であり、実践の場でもあります。また、ものづくりに直接携わる部門では、当社の哲学・理念及び技術開発にかけられた先人の思いを踏まえながら、商品づくりに日々取り組んでいます。

理念と技術を伝えるアシックススポーツミュージアム

2009年7月1日、本社東館にスポーツをテーマにした企業博物館「アシックススポーツミュージアム」を開館しました。このミュージアムは、「ものづくりを通してのお役立ち」という創業者の故・鬼塚喜八郎のDNAを未来に受け継いでいくことを目的に開設されたものです。

ミュージアム内は、大型ディスプレーや実際の速度で光が動くLEDシステムによってトップ選手のパフォーマンスを体感できるフロアと、歴代製品や契約選手使用品の展示によって当社の技術の流れや企業理念が理解できるフロアからなります。

また、ミニチュアシューズの製作などにより、ものづくりのすばらしさや難しさを体感できるクラフトルームも備えています。これら施設の運営と外部との連携によるイベントの開催などで、スポーツを通じた青少年の育成や、企業理念や技術の次世代社員への継承などを図っています。

初年度の2009年度は、当初予想を上回る1万4,000人以上の来館者数を記録。認知度の向上とお客様の動員については所期の成果が得られました。今後は当初の目的でもある「未来に受け継ぐ」をテーマに、子どもに夢を与える取り組みを進めていきます。

実績の概要
(2009年7月～2010年3月)

◆来館者数:
累計14,246人(うち子どもは22%)
◆主なイベント
スポーツ環境校外学習
(協力:NPO法人グローバルスポーツアライアンス)
神戸市内3小学校の4～5年生
計168人
夢の教室
(主催:財団法人日本サッカー協会)
神戸市内のサッカークラブの小学5～6年生　計69人
子どもスポーツ絵画展
神戸市内の小学校から309作品の応募。受賞作品を館内で展示
◆ミニチュアシューズづくり体験者数
累計959人

スポーツ環境校外学習

青少年の育成に貢献します

アシックススポーツミュージアム館長
藤田 和彦

アシックススポーツミュージアムは、創業者の故・鬼塚喜八郎の遺志を継いで開設されました。

選手の満足を徹底的に追求してできた製品やこれまでの技術開発の成果に触れていただくことで、アシックスのものづくりのDNAが継承され、更に進化していくと思います。

当ミュージアムでは、青少年の健全な育成に貢献することにも力を入れています。小学生を対象にした「スポーツ環境校外学習」や「夢の教室」は、スポーツを通じて地球環境を大切にすることや自分の夢に向かって努力することを学び、スポーツマン精神の基本である五訓(礼儀を尽くす、ルールを守る、チームワークを尊重する、常に鍛錬をする、最後までベストを尽くす)を踏まえた生き方を身に付けていただく良い機会であると考えています。更に館内クラフトルームでのミニチュアシューズ作りでは、ものづくりの楽しさと厳しさも体験していただけます。

また、スポーツ文化の振興にも努めています。一人でも多くの人にスポーツの楽しさ、かっこよさ、感動、そして世界記録のすごさを体感していただき、スポーツを始めたり、関心を持ったりしていただくきっかけになればと思います。

未来を創造する青少年に夢を持っていただけるようなミュージアムにしたいと考えています。

ASICS SPORTS MUSEUM

フットウエア統括部

取締役常務執行役員・フットウエア統括部長
池﨑　俊郎

—お客様の期待に応えるものづくり体制へ

FOOTWEAR

「GEL-KINSEI 3」
アシックスのランニングシューズを代表するグローバルモデル

2010年度のシューズの生産量は2009年度を大幅に上回る計画となりました。これは、品質、機能、ファッション性、グローバル性、それらへのお客様の期待に支えられてのものです。期待を裏切らないためにはどうすればよいのか常に思い描いています。

まず、常にグローバルな視点に立ち、高品質・高機能の商品を提供すること。これには地域特性を盛り込むことも重要です。全世界の人に満足して履いていただくのが夢です。

二つ目は、業界の先駆者となりCO_2削減に貢献する商品を生み出すこと。当社の責務です。今以上のCO_2削減を図った商品を早い時期に発表したいと思っています。

三つ目は、協力工場との取り組みの強化。当社シューズの95%は海外の協力工場で生産されています。働いてよかったと思っていただける工場にしたいのです。

四つ目は、生産地の分散と新たな工場や国・地域との友好関係の構築です。世界情勢の変化に対応するリスクマネジメントです。人件費の低減を追うだけでは品質と供給の安定も望めません。進出先の発展あってのリスクマネジメントです。

五つ目は、業務プロセスの見直しによる効率的な経営。企画から生産開始へのプロセスを見える化する新システムで業務間の流れを円滑にし、業務品質とスピードを向上させます。

平成22年3月期連結
分類別売上高明細表

（単位：百万円）

分類	売上高	構成比
スポーツシューズ類	165,808	73.9%
スポーツウエア類	42,576	19.0%
スポーツ用品類	16,010	7.1%
合計	224,395	

アパレル・エクィップメント統括部

取締役常務執行役員・アパレル・エクィップメント統括部長
清水　裕一郎

—競争力の向上を目指して仕組みを再構築

APPAREL EQUIPMENT

「ジャムアップジャケット」「トレーニングパンツ」
学校体育衣料では日本で初めて「カーボンフットプリント」マークの表示が認められたトレーニンググウエア

私たちは、3つの目標を掲げて事業に当っています。

話題商品・ヒット商品の創出

何があっても達成すべきメーカーの使命です。独自の機能素材を開発し、高機能をアピールできる商品を生み出します。また、CO_2の見える化にいち早く着手し、2010年はカーボンフットプリント（原料調達から廃棄までのCO_2排出量）表示商品を発表します。また、排出量を抑えた商品も開発します。

海外工場の集約

コストの低減と品質・納期の安定を目指し、数多くある海外委託先工場を計画的に絞り込み、より効率的な工場配置にします。海外生産比率は60%から70%に増えますが、拠点の複数化でカントリーリスクの軽減を図ります。更に、素材の共有化に向け、海外生産品のうち35%ある海外調達素材製を2011年には80%にします。また、人権と環境に配慮したものづくりに努めます。

品質向上への改革

2009年はリコールが4件ありました。幸い危険のないものでしたが、深く反省し、開発段階でチェックが漏れぬよう業務プロセスを見直して、再教育とルール徹底を進めています。品質研修と検品も強化し、不良品を大幅に減少させました。ものづくりと品質に執着し、ルールを順守して、再発防止に努めます。

CSRの基本的な考え方

**創業哲学を継承した理念に支えられるアシックスのCSR。
よりどころとして、結集する力として、さまざまな場面で語られるアシックスの理念は、
社員の中に生き続けています。**

アシックスの考えるCSR

アシックスは、創業者の故・鬼塚喜八郎がスポーツによる青少年の育成を通じて日本の発展に寄与するという強い思いを実現させるために創業した企業です。この思いは、「すべてのお客様に価値ある商品・サービスを提供する」というものづくりに対する私たちの理念として生きています。この理念の実現こそが我々アシックスにできる社会貢献だと考えています。

お客様の求めるものを徹底して追求し、スポーツをする選手や健康を願う人々の思いに役立つことが使命です。創業哲学「健全な身体に健全な精神があれかし」から導き出された理念とビジョンに基づき、スポーツ用品メーカーとして本業である「ものづくり」に真摯(しんし)に取り組んでいます。そして、経済的要素のほかに社会的要素、環境的要素などの価値を積極的に追求し、企業自身の事業持続性や成長性を高め、社会の一員として存続、発展していく「持続可能な成長企業(Sustainable Enterprise)」であることが大切と考えています。

創業哲学と密接に結びついた企業活動を展開

アシックスの企業活動の基本姿勢

創業哲学

**「健全な身体に健全な精神があれかし
— “Anima Sana In Corpore Sano”」**

アシックスの理念

一、すべてのお客様に価値ある製品・サービスを提供する
二、私たちを取り巻く環境をまもり、世界の人々とその社会に貢献する
三、健全なサービスによる利益を、アシックスを支えてくださる株主、地域社会、従業員に還元する
四、個人の尊厳を尊重した自由で公正な規律あるアシックスを実現する

アシックスのビジョン (目指すべき姿)

**「スポーツ・健康・快適ライフを創造する
世界ナンバーワン企業」**

■創業哲学と社名

当社は、1949年に創業者の故・鬼塚喜八郎が、スポーツを通じて青少年を健全に育成することを願って始めた企業(当時鬼塚株式会社)です。

第二次大戦から復員した鬼塚が見たのは、焼け野原となった神戸の街で非行に走る青少年の姿でした。将来を担う青少年の育成のためには何がよいか。それを考え、手がけたのがスポーツシューズだったのです。

その後、総合化を図り1977年にジェレンク株式会社、株式会社ジィティオと合併。株式会社アシックスが生まれました。

この「アシックス」は、2世紀のローマの風刺作家ユベナリスの名句で当社の創業哲学でもある「もし神に祈るならば、健全な身体に健全な精神があれかし、と祈るべきだ」を基に名付けられたものです。

原典では「精神」は「Mens」と表されていますが、「躍動する精神」という、より動的な意味を持つ「Anima」に置き替え、「Anima Sana In Corpore Sano」とし、その頭文字を取って「ASICS」(アシックス)となりました。

コーポレートマーク

asics

当社のコーポレートマークは、アシックス誕生時に躍動感や力強さ、そして人間的な温かみを意識してデザインされたものが原型です。2007年から使われている現在のマークは、急速に進む経営のグローバル化を背景に、世界の人々にとっての見やすさや読みやすさを高めながら、より現代的な書体にし、当社及び「アシックス」ブランドの持つスピード感や斬新さを表現したものになっています。

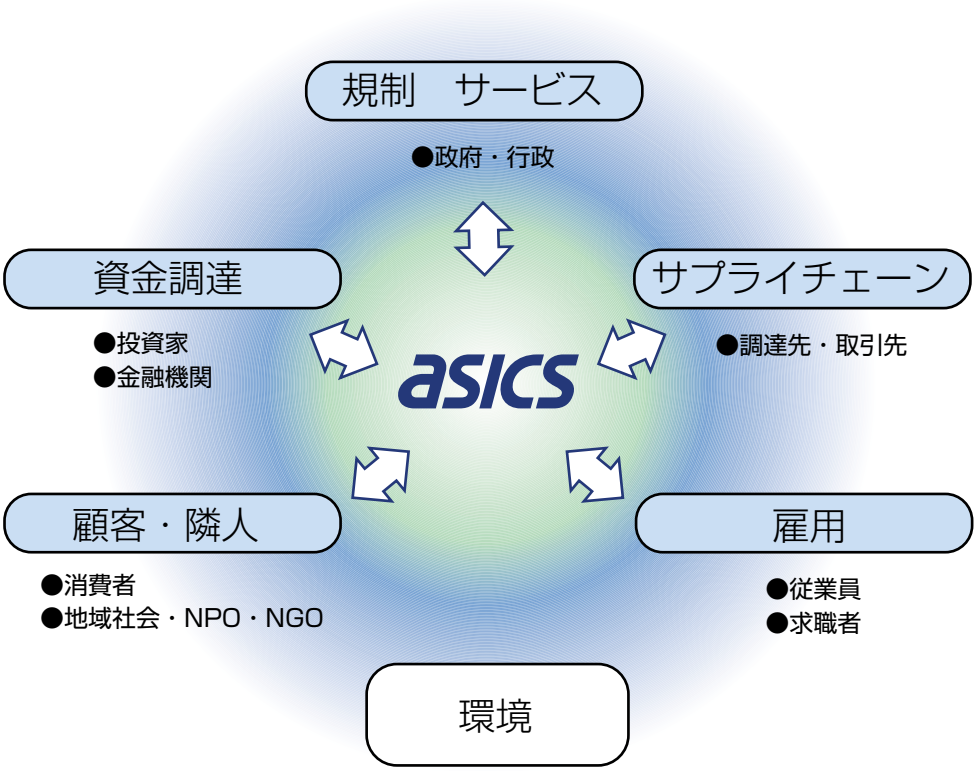
国際的なルールと進出先の文化を尊重

ステークホルダーとの関係

私たちはステークホルダーとのコミュニケーションは大変重要であると感じています。

私たちは、社会とともに存在し、社会の発展なしには企業の発展がないことを強く認識しています。グローバルな企業として、国際的なルールを尊重しながら、進出先の習慣、文化を尊重して事業を展開します。

アシックスを取り巻くステークホルダー



「CSRの優先課題」の充実を図りました

2009年度の概要

国内外のルール変更への当社コンプライアンス体制の即応と、当社ＣＳＲの優先課題である７項目に関する活動の充実を図りました。

低迷する世界経済、不安定な国際政治情勢もあり、環境問題、労働・人権問題は、各国の思惑や外交力学を色濃く反映した形となり、複雑化してきております。そのような状況の中、アシックスにできる環境問題への取り組みの一つとして、各事業所から排出されるCO2の削減があります。

これには中期的な目標を設定し、着実に進めてきました。また、生産委託先工場の労働環境の改善に積極的に取り組みました。従来の工場監査の実施だけではなく、改善に向けての方法を工場と共有する教育活動を推進しました。

CSRの優先課題

1．マルチステークホルダーとのかかわり

安全品質と顧客満足

安全な製品の提供により、顧客満足の向上に努めています

製品の安全がより強く求められる中、お客様に安全かつ快適にお使いいただくため、企画から開発、設計、生産、出荷まで、徹底した品質管理を行っています。

環境保全

地球環境を守る取り組みを進めています

地球環境を未来に引き継いでいくため、事業活動に伴う環境負荷の低減や環境に配慮した商品の研究・開発を行い、持続的発展が可能な社会の実現に貢献していきます。

サプライチェーン管理

生産委託先工場の労働環境、労働条件の改善を進めています

作り手の満足が良い商品につながり、良い商品がお客様の満足につながるという考えの下、サプライチェーン全体にわたって環境、人権、労働、企業倫理などへの配慮と改善に努めています。

従業員満足

働きやすい職場作りを進めています

すべての従業員が能力を発揮でき、仕事と生活の両立ができる職場作りを目指します。制度面の整備のほか、従業員参加型の取り組みも進めています。

社会貢献

スポーツ用品メーカーとしての社会貢献を目指しています

スポーツ文化の普及に努めるなど、良き企業市民として社会貢献活動に積極的に取り組んでいます。

個人情報管理

個人情報を適切に管理・保護しています

お客様の財産である個人情報を大切に管理することを重要な責務と考え、適切な管理・保護に取り組んでいます。

2．法人としての取り組み

コーポレート・ガバナンス

健全で透明性の高い経営に努めています

企業価値を継続的に高め、すべてのステークホルダーから信頼されるために、アシックス行動規範、アシックス自主行動基準の適切な運用やコンプライアンス施策の強化などにより、コーポレート・ガバナンスの充実を図っています。

安全品質と顧客満足

安全な製品の提供により、顧客満足の向上に努めています

製品の安全がより強く求められる中、お客様に安全かつ快適にお使いいただくため、
企画から開発、設計、生産、出荷まで、徹底した品質管理を行っています。

リコール(自主回収)について

2009年度は残念ながら国内グループを含めて５件のリコール(自主回収)を実施しました。

2009年５月

アウトドアウエア：色落ちの恐れで回収

2009年５月

野球用バックパック(ジュニア用)：縫製不良で回収

2009年６月

ブラトップ：縫製不良で回収・交換

2009年10月

フィットネス水着11品番：縫製不良で回収

2010年３月

競泳水着：マークはく離で回収

この結果を反省し、当社の体制を見直し、安全と品質を確保するため、商品のライフサイクル全般について考え、企画、開発、設計、生産、販売、出荷まで、徹底した品質管理を行っています。

アシックスの製品安全理念

アシックスは、製品安全・品質管理をメーカーの普遍的責務であるととらえ、その基本姿勢を「アシックス製品安全理念」として明文化しています。また、生産工場でも、製品安全意識の向上を図る取り組みをしています。

リコールの再発防止に向けて、「製品安全理念」の再徹底を図り、社員教育のための品質管理研修を実施していきます。

アシックス　製品安全理念（抜粋）

1.アシックスは「安全な製品以外は市場に出さない」という強い信念で製品化を行い、社業のゆるぎない発展をめざす。
2.アシックスは提供する製品に関して、人の生命、身体または財産の安全確保のための「製品安全」を限りなく追求する。
3.アシックスは最終製品だけでなく、生産・流通・保管等の各段階に携わる人々・法人の生命、身体または財産の安全性の確保においても社会的責務を果たす。
4.アシックスは製品の欠陥による損害賠償事故が生じた場合、当社側の責任については誠意をもって速やかに被害者救済を行い、再発防止に努める。

生産工場内に掲示した
「意識向上」を図る啓発ポスター

製品安全への取り組みをさらに強化

製品安全に関する専任チーム発足（2010年度）

製品安全への取り組みを充実させるため、2010年４月、スポーツ工学研究所に専任の組織「安全品質保証チーム」を設置しました。

- スポーツ工学研究所
  - 研究推進チーム
  - 安全品質保証チーム（本社）
  - 材料研究部
  - 機能研究部

品質管理の推進体制

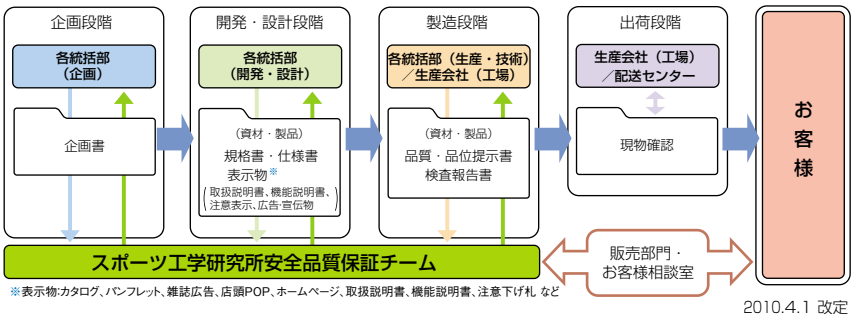
すべてのプロセスでチェックを徹底

製品安全審査フロー

商品のライフサイクル全般にわたり、右のフローに基づく製品安全（製造物責任）審査を実施しています。

資材・製品の安全性・品質に関しては、法規制、業界基準、自社基準に定められた試験実施の確認、その判定結果に基づく指導・提案を行っています。また、有害化学物質に対する独自の管理基準を定めて運用を進める一方、製品安全審査の一環として一部商品のモニタリングも行っています。

製品安全審査フロー



※表示物：カタログ、パンフレット、雑誌広告、店頭POP、ホームページ、取扱説明書、機能説明書、注意下げ札 など

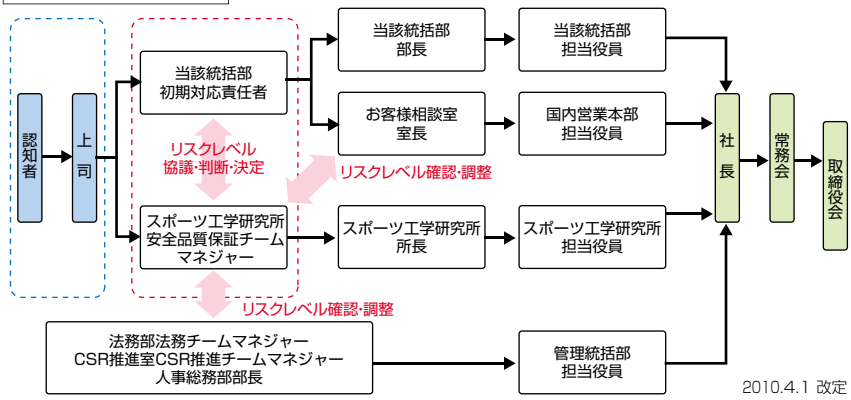
2010.4.1 改定

安全品質にかかわる重要情報の社内共有を実現

事故（不具合・不良）情報伝達フロー

アシックスは、不具合、不良、事故が、その事象のリスクレベルによってはアシックスグループ全体の企業価値を著しく低下させ、事業活動に重大な危機をもたらすものになると認識しています。不具合、不良、更には事故が発生した場合、及びその可能性が予測される場合に、当社はお客様の安全を第一と考え、自社の「危機管理規程」に基づき、右のフローに沿って、正確かつ迅速に経営の中枢に伝達するとともに、法にのっとり、所管官庁に速やかに報告しています。また、被害の重大性などに応じて、新聞社告、ホームページなどで情報を開示しています。

事故情報伝達フロー



2010.4.1 改定

信頼されるものづくりのために

品質情報展を継続して開催

お客様からいただいたさまざまな声をグループ企業も含めた社内に公開する「品質情報展」を毎年開催しています。お客様がご不満を持たれた商品及び不具合品に、お客様相談室での対応内容、製品担当者・生産担当者のコメントを添えて展示しているほか、お客様からのお褒めやお礼のうれしいお手紙も紹介し、普段製品とのかかわりの少ない部署の社員もお客様の声に触れることができるようになっています。

本社で開催した品質情報展。
お客様の声を従業員に公開することで社内の意識向上を図っています。

お客様満足の向上を目指して

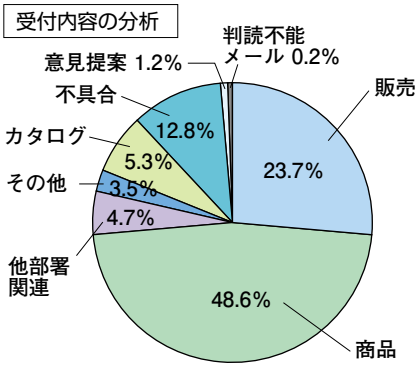
アシックスの「お客様相談室」は、1980年、創業者である故・鬼塚喜八郎の「ユーザーの不満を掘り起こせ。そこに宝の泉がある」との考えから設立された「消費者相談室」が前身です。設立に際して鬼塚は、「単なる苦情処理ではなく、お客様の声を社内に伝える」という大切な機能を盛り込むことを重視しました。

そのDNAは、現在も脈々と受け継がれ、お客様からいただいたご意見、ご要望、おしかりをものづくりに生かすように努めています。現在では、企業ブランドの維持や経営にかかわる社会、消費者・生活者との窓口及び企画・開発、生産、営業の各部門とのインターフェースとして活動しています。

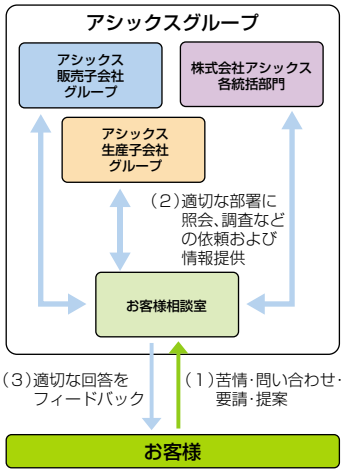
お客様相談室の受付件数

チャネル	受付件数(件)
FAX	3
メール	6,150
書簡・報告	255
電話	22,701
合計	29,109

受付内容の分析



お客様の意見を反映させるフロー



TOPICS

平成21年度　第3回製品安全対策優良企業表彰
ー商務流通審議官賞を受賞ー
(大企業　製造事業者・輸入事業者部門)

スポーツ工学研究所材料研究部
品質評価試験チーム
尾崎　明文

第一回表彰で銀賞をいただいて２年が経過。「製品安全対策優良企業のロゴマークが使用できなくなるね。今年のエントリーはどうしようか？」が今回のスタートでした。

当然、お客様に安全・安心な商品を提供することは私たちの命題であり、製品安全保証システムは日々改善されてきました。しかし、継続して積み上げてきた事項がほとんどであったため、目新しさ・新規性がなければ再度の受賞は難しいのではとも考えましたが、「２年間で行ってきたことを整理し確認する場にしよう」と、エントリーしました。

実際、各事業部門に分かれる品質管理業務内容を再度確認・整理することで担当者の横断的なつながりもでき、有意義なものとなりました。おかげさまで、全社的な製品安全保証体制の継続と拡充、取り組みの見直しと改善が評価され、大変うれしく思います。この受賞をゴールとせず、更に製品安全品質対策の向上・推進に努めていきたいと思います。

各部門の品質管理担当者と
(筆者は写真中央奥)

製品安全対策優良企業表彰のロゴマーク

http://www.ps-award.jp/3-consumer/p4.html

受賞のポイント

●業界の安全評価手法等の確立への貢献

スポーツ用品業界において共通の課題・問題を検討する中で、自社の研究設備を生かし、安全性の評価手法や基準値の提案を行い、業界全体の製品安全レベルの向上に貢献している。

●品質・安全に関する社内イベントの継続と内容拡充

顧客の声を従業員に公開する「品質情報展」を2002年から毎年2回継続開催している。販売会社、配送センター、海外の製造委託先でも開催するなど、活動の範囲を拡げ、携わった商品に最後まで責任を持つという意識を維持・向上している。

●消費者の声の積極的な収集

消費者関連のセミナーやイベントにおいて自社の取り組みを紹介するなど、消費者の考え方・意見・自社の評価を積極的に収集する姿勢を持ち、取り組みの見直し・改善に生かしている。

環境保全

地球環境を守る取り組みを進めています

**地球環境を未来に引き継いでいくため、事業活動に伴う環境負荷の低減や
環境に配慮した商品の研究・開発を行い、持続的発展が可能な社会の実現に貢献していきます。**

2009年度の総括と今後の課題

環境管理責任者　取締役執行役員・管理統括部長
佐野　俊之

地球温暖化問題や資源の枯渇問題など、環境問題は世界の大きな課題となっています。

アシックスにとっても、資源の枯渇問題などは、事業に大きな影響を与えるものであり、企業として真摯(しんし)に取り組まなければならない課題であると認識しています。地球環境の保全なくして、当社の持続可能な発展はないと考えます。

2009年度アシックスは、事業活動を通じた省資源、省エネルギー、環境に配慮した材料選択、工程選択といった活動を行い、数値目標を達成しました。

今後も環境問題の改善と、持続的発展が可能な社会の実現に貢献していきます。また、当社の環境活動がステークホルダーから十分に認知されるよう積極的に情報開示をするとともに、環境配慮型商品の開発などの環境保全活動を進めていきます。

国内グループの活動

本社を中心に、ＩＳＯ14001に基づく環境マネジメント※を実施しています。

2009年度は、以下の目標を達成したほか、カーボンフットプリントやマテリアルフローコスト会計(ＭＦＣＡ)、ライフサイクルアセスメント(ＬＣＡ)の手法を導入して環境負荷を定量的に測定し、その削減を検討しました。

二大目標を達成しました

2009年度の目標と結果

目　　的	2009年度の目標	2009年度の結果
環境配慮型商品の拡大	環境配慮型商品の売上高占有率17%	売上高占有率25.5%
CO_2排出量の削減	CO_2排出量　2007年度比4%削減	2007年度比　4.3%削減

明確な目標を掲げて更に改善

今後の課題

2010年３月、「社長による見直し会議」(14ページ参照)で、中期目標の継続が決定されました。また、環境情報の積極的な発信・開示と、環境配慮型商品の強化が指示されました。

今後、海外事業所を含めたより多くの情報発信・開示を目指すほか、強みである技術力を生かし、環境配慮型商品の開発がすべての分野で進むよう努めます。
(それぞれの活動の詳細については13ページ以降を参照)

※ 環境マネジメント

- アシックスグループは、PDCAサイクルに基づいて環境活動の継続的改善を進めるために、アシックスの本社、スポーツ工学研究所、株式会社ニシ・スポーツで、環境マネジメントシステム「ISO14001」の認証を取得しています。マネジメントシステムを導入することで、当社事業活動の環境影響、リスク、関連法規制の特定、活動目標やアクションプランの策定と運用、また、活動結果の自己評価、確認改善を行う仕組みを構築することができました。
- 2010年3月には、アシックスヨーロッパB.V.でも認証を取得。今後、海外事業所での「ISO14001」認証取得を進めていきます。
- 国内では、グループ会社を含めた目標管理を実施し、環境マネジメントを進めています。今後は、海外グループ会社を含めた環境マネジメントを目指して改善していきます。

２つの重点項目を掲げて

2009～2011年度 中期環境目標を設定

当社の事業であるスポーツ用品の製造・販売を通じて環境問題の改善に貢献していくことと、近年の主要な環境問題である地球温暖化問題への取り組みを重視し、以下の２項目を国内グループの2009年度から2011年度の目標としました。

中期目標は、ステークホルダーの要望、環境問題の状況を考慮し、年１回見直しています。

2009~2011年度 中期環境目標

2011年度までに環境配慮型商品の売上高占有率を25%にする ※海外グループでの売上高占有率を把握する。	2009年度	環境配慮型商品の売上高占有率　17%
	2010年度	環境配慮型商品の売上高占有率　20%
	2011年度	環境配慮型商品の売上高占有率　25%
2011年度のCO_2排出量を2007年度比6%削減 ※海外グループでの排出量を把握する。	2009年度	CO_2排出量　2007年度比　4%削減
	2010年度	CO_2排出量　2007年度比　5%削減
	2011年度	CO_2排出量　2007年度比　6%削減

マネジメントシステムの運用で継続的に改善

2009年度の環境目標と達成状況

環境マネジメントシステムISO14001に基づき、2009年度はおおむね目標を達成しました。下表はISO14001認証を取得している本社、スポーツ工学研究所での目標達成状況です。（一部、国内グループの目標です。）

2009年度は、多くの項目で目標を達成しましたが、部署や事業所ごとに達成度にばらつきがありました。優良事例の共有などを進め、全体の活動内容が向上、改善されるよう努めていきます。

2009年度環境目標と実績・評価

※評価の基準：達成率１００%以上… ☺
１００%未満… ☹

項目	2009年度目標		2009年度実績	評価	関連ページ
商品開発	・環境に配慮した商品、サービスの提供	・環境配慮型商品の研究開発 新規開発232点	・新規開発320点	☺	p.14（下段）～17
	・2011年度までに環境配慮型商品の売上高占有率を25%にする ※国内売上高	・環境配慮型商品の 売上高占有率17%	・売上高占有率25.5%	☺	
情報公開	・環境情報の公開、アピール	・ウェブ、カタログ、展示会、広報、大会などを通じた環境情報の公開、アピールの実施	・ウェブ、カタログ、展示会でエコプランマーク商品を掲載、展示 ・「東京マラソン2010」での環境活動に関する広報を実施	☺	―
工場管理	・委託先工場での環境配慮管理	・環境配慮型接着剤の採用推進 ・委託先工場の環境配慮管理調査	・採用率49.1% ・ウエア、用具生産工場の環境保全状況を確認	☹ ☺	― ―
CO_2削減	・2011年度のCO_2排出量を2007年度比6%削減 ※国内グループの目標として取り組む	・CO_2排出量 2007年度比4%削減	・2007年度比4.3%削減	☺	p.18
教育・啓発	・環境啓発、教育の実施	・アシックスグループでの環境啓発、教育の実施	・4事業所でセミナーを実施	☹	―

アシックス環境方針

2001. 8.22制定
2003. 2. 1改定
2005. 4. 1改定

●理念

アシックスは、環境保全活動が企業の重要な社会的責務の一つであることを認識し、地球規模での持続的発展が可能な社会を実現するために行動する。

●方針

（1）アシックスグループにおける環境マネジメントシステムを拡大、整備し、権限と責任を明確にすると共に、地球規模での環境保全を推進する。

（2）あらゆる企業活動において、省資源、省エネルギー、廃棄物の削減、グリーン購入、汚染防止など地球環境への負荷の低減に取り組む。

（3）企業活動において、あらゆる国や地域での環境関連の法律、規制、協定などを順守するとともに、より一層の環境保全に努める。

（4）あらゆる商品及びサービスにおいて、企画段階から環境負荷の低減を考慮した商品作り・研究開発に努める。

（5）環境監査を実施することにより、環境マネジメントの継続的改善を図り、企業の社会的責任を果たす。

（6）アシックスグループ内外の広報活動、環境教育などの機会を通じて環境保全に関するグループ全従業員の意識の向上に努める。

（7）企業の社会的責任の一つとして、環境保全活動の取り組み状況を積極的に情報公開し、ステークホルダー（利害関係者）とのコミュニケーションを図る。

ISO14001登録証

経営視点での環境活動の見直しを年１回実施

マネジメントレビュー

アシックスでは、経営視点での環境活動の見直しをするため、年１回、「社長による見直し会議」を実施しています。

2010年３月の同会議で、2009年度の活動を見直した結果、経営層から、以下の決定、指示事項がありました。

■決定事項

（１）環境方針を継続する。
（13ページ参照）

（２）2010年度も、中期目標の活動内容（環境配慮型商品の売上高占有率の向上、CO_2排出量の削減）を継続する。

（３）2011年度から、「統括部」を活動単位とし、既存の組織・責任体制、会議の中で環境活動を実施する。

■指示事項

（１）象徴的な環境配慮型商品を開発し、社外に広報・発信すること。

（２）当社ブランド強化のためにも、環境活動に関する情報開示・情報発信（IR・広報等）を強化すること。

社長による見直し会議

持続可能な発展を目指すものづくり

環境に配慮した商品の開発

地球温暖化問題や資源の枯渇などの問題は、ものづくりと密接に関係しています。製造工程で資源とエネルギーを使用することによってCO_2を排出するためです。アシックスは、当社の事業であるスポーツ用品の製造の中で、省資源や省エネルギーに取り組むことが、環境問題の改善に貢献し、当社の持続可能な発展につながると考えています。

当社は、商品の環境配慮設計を重視し、設計段階から環境に配慮するように、環境配慮型商品認定基準を設定しています。環境に配慮した素材や工程の選択など、商品の原材料調達から、生産、流通、使用、廃棄に至るライフサイクルの各段階で環境に配慮したものづくりを推進しています。（環境配慮型商品に関する詳細は15ページ以降を参照）

これまでにも、リサイクル材を採用した商品や、回収リサイクルシステムを採用した商品の開発、そして、包装材についても、シューズ箱やウエアの包装袋の材料変更や軽量化を図り、環境負荷の削減を進めてきました。また、取引工場と協働し、シューズ製造での有機溶剤の使用量を削減し、水溶性接着剤の導入を進めています。

当社のスポーツ工学研究所では、部品をより少ない原材料で製造する技術や、製造工程の効率化・省エネ化の研究を進めています。これらの研究や技術を生かし、商品のライフサイクル全体での環境配慮に取り組んでいきます。

製品の化学物質についても、管理・運用のガイドライン※を作成し、法規制を順守し、お客様の声に応えるよう、取り組みを進めています。

※有害化学物質管理

欧州でのREACH規則、米国の子ども用製品に対する鉛規制を始め、有害化学物質の地球規模での管理が進み、環境に関する規制も厳しくなっています。当社は、「アシックス環境方針」に基づき、製品の化学物質の管理・運用に関するガイドラインを制定しています。

このガイドラインでは、法規制と環境アセスメントに基づいて化学物質を禁止物質、制限物質、管理物質の3つの管理ランクに区分し、その管理基準に従い取引先に管理・運用を求めています。今後も法規制や環境の変化に合わせて、随時ガイドラインを改訂していきます。

有害化学物質の管理・運用ガイドライン（抜粋）

1. 目的

株式会社アシックス（以下、当社という）は「アシックス環境方針」（別表1）に基づき、当社が設計・製造および販売する製品について、それらを構成する原材料・部品等に含まれる有害化学物質の管理・運用について、「ASICS 有害化学物質管理・運用ガイドライン」（以下、本ガイドラインという）を定め運用する。

■環境配慮型商品認定基準の設定

右表に基づき、商品種別ごとに詳細基準を設定。その基準を満たした商品を当社の環境配慮型商品とし、「アシックス　エコプランマーク」を付けています。

この認定基準は開発者の声、市場要求に合わせて、随時見直されています。

アシックス　エコプランマーク

アシックス　エコプランマーク認定基準

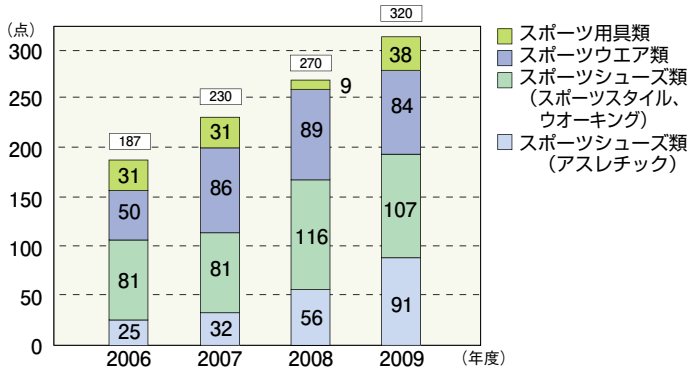
クリーン	**環境への負荷を減らすものづくりに取り組みます。** ★環境に配慮した素材、材料を使用し、廃棄時などの環境負荷を減らした商品。 ★廃棄時の環境負荷を減らすため、分別・分解しやすい素材・構造になっている商品。
セービング	**ものづくりにおける省エネ・省資源活動に取り組みます。** ★材料の使用量を減らし、省資源に取り組んだ商品。 ★共通の材料を使用することにより、資源を有効利用して作られた商品。 ★製造工程の効率化により、省エネに貢献した商品。
サステナブル	**商品の長寿命化を促進し、廃棄物の減少に貢献します。** ★消耗部位の修理、交換が可能な商品。また、修理、交換が容易な構造になっている商品。 ★耐久性に優れた素材・構造が採用された商品。
リサイクル	**循環型社会を目指し、リサイクルを促進します。** ★循環型リサイクルシステム（製品⇒回収⇒リサイクル⇒製品）の仕組みを利用して作られた商品。 ★廃材を再利用して作られた商品。 ★リサイクル素材を使用した商品。
包装資材への取り組み	包装資材も商品の一部ととらえ、軽減、簡素化に取り組みます。

■開発目標と結果

2009年度は、「アシックス　エコプランマーク認定基準」に基づく環境配慮型商品の新規開発目標を232点に設定しました。

2009年度は、全体で320点の開発があり、2008年度より50点多く環境配慮型商品の新規開発を行い、目標を達成することができました。

環境配慮型商品の新規開発点数

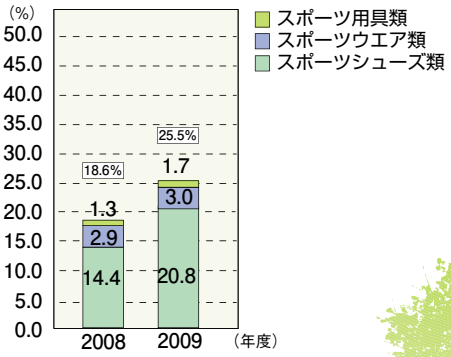


■売上高占有率目標と結果

2009年度は、環境配慮型商品の国内の売上高に占める割合を17%に向上させるという目標を設定しました。

2009年度は全体で25.5%に達し、2008年度より6.9ポイント上昇し、目標を達成することができました。

環境配慮型商品の売上高占有率



■環境配慮型商品開発事例

①品名:GEL−NIMBUS 12（TJG895）

・再生ポリエステルを使用した人工皮革を採用
・成型工程で廃材が出にくい製法（インジェクション製法）を採用

②品名:EFFORT KN（TTP757）

・再生ポリエステルを使用した人工皮革を採用
・植物由来のプラスチック材を採用

③品名:ファブレFIRST ECO（TUF107）

・再生ポリエステルを使用した人工皮革を採用
・素材の重なり、縫い目を減らし、省資源に貢献

④品名:ランニングTシャツ（XTR974）

・再生ポリエステル生地を採用

⑤品名:スウェットパーカ（CFT500）

・再生ポリエステル生地を採用
・オーガニックコットンを採用

⑥品名:6人制バレーボールネット（2825EK）

・再生ポリエステル繊維を採用
・非ＰＶＣ※素材のコーティングを採用

※ＰＶＣ＝塩化ビニール

■ 従来型商品との環境負荷の比較

左欄の環境配慮商品にはすべて再生ポリエステル素材が使用されています。再生ポリエステルは、それを製造するためのエネルギーの使用量及び温室効果ガス（ＧＨＧ）の排出量が、原油から新たに製造されたポリエステルよりも少なくなると報告されています。
以下のデータは、経済産業省と株式会社産業情報研究センターが取りまとめた繊維製品（衣料品）のＬＣＡ調査報告書から抜粋したものです。

事業系古着・古布（ポリエステル衣料）を回収してペレット（加工しやすいように粒状にした樹脂素材）を996kg製造した場合の環境負荷

エネルギー使用量	MJ	6,838
CO_2排出量	kg-C	69
SOx排出量	kg	0.166
NOx排出量	kg	0.217
固形廃棄物排出量	kg	5

原油からＰＥＴ樹脂を996kg製造した場合の環境負荷（ボトル用ＰＥＴ樹脂として計算）

エネルギー使用量	MJ	27,800
CO_2排出量	kg-C	404
SOx排出量	kg	3.134
NOx排出量	kg	2.585
固形廃棄物排出量	kg	1,008

※このページの商品は、①ＧＥＬ−ＮＩＭＢＵＳ 12（2010年８月１日発売予定）以外は、2010年４月１日時点で発売されている商品です。
※今後、販売終了や仕様変更となる可能性があります。

商品の環境配慮のための新たな視点

環境負荷の見える化

アシックスは、より環境に配慮した商品開発を進めるために、2009年度は、シューズとウエアについて、以下の取り組みを実施しました。

取り組みを通じ、製品のライフサイクルの各段階での環境負荷の把握と分析手法を習得し、環境負荷の削減方法を検討しました。今後も、他商品の環境負荷分析、環境負荷削減方法の検討を進め、環境に配慮した商品を拡大していきます。

■シューズ製造工程の環境負荷、コスト負荷の見える化

国内製造工場の山陰アシックス工業株式会社とともに、平成21年度経済産業省委託事業の「サプライチェーン省資源化連携促進事業」に参加しました。

同事業は、サプライチェーン内の企業が協働し、単独企業では実施できない省資源・コスト削減を達成することを目的としています。

同事業でアシックスと山陰アシックスは、ウオーキングシューズ製造にかかる環境負荷、コスト負荷の分析をしました。その結果、底材料にかかる環境負荷とコスト負荷が高いことが分かり、改善策として、シューズの底材料のリサイクルを検討・立案しました。

また、本事業を通じて、製造工程での物量とコストを分析する「マテリアルフローコスト会計（ＭＦＣＡ）」と、製品のライフサイクルでの環境負荷を分析する「ライフサイクルアセスメント（ＬＣＡ）」の手法を習得することができました。

今後は、今回の事業で検討した改善策を実行するとともに、環境負荷・コスト負荷分析の手法を他製品に展開し、製品の環境負荷・コスト負荷の削減を進めていきます。

■学校体育衣料でCO_2排出量の見える化

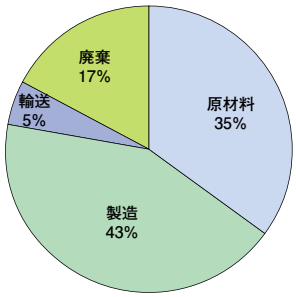
当社は、経済産業省及び関係省庁が推進する「カーボンフットプリント※制度試行事業」で、ユニホームの「商品種別算定基準（ＰＣＲ）」策定作業に参加しました。また、同算定基準に基づき、学校体育衣料２品番のCO_2排出量を算出し、検証審査を受け、「カーボンフットプリント」マーク表示の認定を取得しました。

今回、国内で初めての学校体育衣料での認定取得となったことから、学校での環境教育にも貢献ができると考えています。

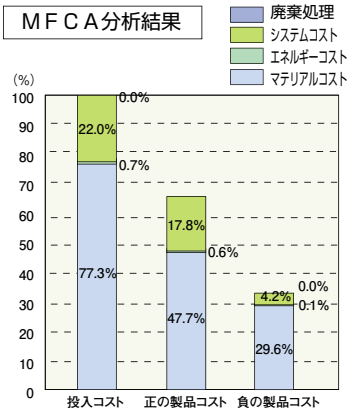
今後は、学校体育衣料で順次「カーボンフットプリント」マークを申請するとともに、他分野の商品についても表示できるように取り組んでいきます。

当社では、CO_2排出量の多い工程や削減可能な工程を把握し、CO_2排出量削減の取り組みを更に進め、低炭素社会の実現に貢献できるよう努めていきます。

ウオーキングシューズの
各ライフサイクル段階の
温室効果ガス排出量（比率）



ＭＦＣＡ分析結果



正の製品コスト…製品になる物量をコスト換算した値
負の製品コスト…廃棄された物量をコスト換算した値

システムコスト：人件費等の間接経費
エネルギーコスト：電気・燃料費
マテリアルコスト：材料費

※ カーボンフットプリント

商品の原材料調達から生産、流通・販売、使用・維持管理、廃棄・リサイクルに至る5つのライフサイクルの各段階で排出された温室効果ガス（GHG）をCO_2に換算し、商品に表示する取り組みです。

CO_2排出量の削減目標の設定・見直しを継続

地球温暖化問題への取り組み

地球温暖化の影響により、ウインタースポーツなど、場所が制限される可能性が高いスポーツがあります。アシックスは、自然環境の持続可能性がスポーツの持続可能な発展につながると考えています。

当社は、環境マネジメントを通じて、CO_2排出量の削減目標の設定、見直しを継続的に行っています。その削減目標に基づき、商品のライフサイクル全体でのCO_2排出量の削減に取り組むとともに、各事業所で省エネ・省資源活動や建物の新設・増設時の省エネ設計を進めています。

地球温暖化による異常気象が増加すれば、各国に所在する当社の事業所、工場、物流センターに被害を与え、生産活動や物流活動に影響を与えるリスクがあります。そういったリスクを軽減するためにも、地球温暖化問題に真摯（しんし）に取り組まなければならないと考えています。同時に、事業活動の省エネ・省資源化をコスト削減や事業の効率化につながる機会ととらえ、積極的に取り組んでいます。

2007年度比4%の削減目標を達成

CO_2排出量削減の状況

2007年度から国内グループ会社各社のCO_2排出量データを把握し、2008年度には中期環境目標（13ページ参照）を設定し、事業所ごとに削減に向けて取り組んでいます。その結果、2009年度は2007年度比4.3%削減し、目標を達成しました。

また、2009年度から海外グループ会社のCO_2排出量データの把握を開始し、グローバルにCO_2排出量の削減を推進しています。

日々の活動の中で取り組みを継続

省資源・廃棄物管理、ごみの削減、グリーン購入

コピー紙使用量の削減、産業廃棄物・事業系一般廃棄物量の削減、グリーン購入（環境に配慮したオフィス文具の購入）の実施に継続的に取り組んでいます。

コピー紙使用量は、2008年度比2.0%増加しました。産業廃棄物量は、品番数の増加に伴い2008年度比6.8%増加、事業系一般廃棄物量は、リサイクル化が進み2008年度比3.1%減少しました。

本社とスポーツ工学研究所の廃棄物には、商品開発・研究の際に使用した材料類などの産業廃棄物とオフィス業務から出る事業系一般廃棄物があります。

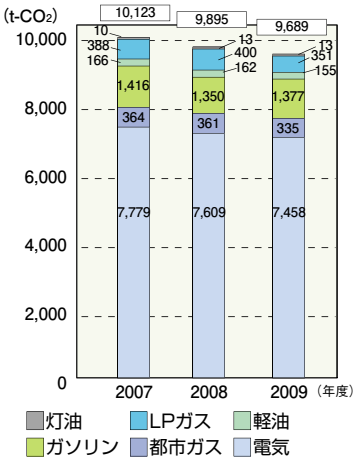
2009年度は、スポーツ工学研究所で、RPF（固形燃料）へのリサイクルを開始しました。

今後は、より多くの事業所で、省資源・廃棄物の削減に取り組んでいきます。

事業所ごとの主な活動

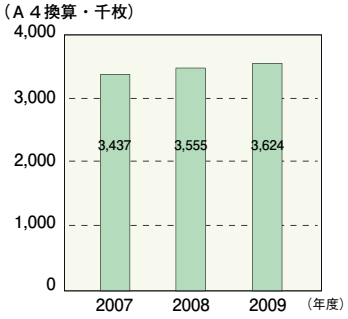
支社・販売会社	・消灯の徹底 ・省エネ型照明への更新 ・アイドリングストップ等のエコドライブの実施、教育　など
生産工場	・不要箇所の消灯の徹底 ・クールビズ、ウオームビズの徹底 ・機械設備の省エネ化の推進　など
物流センター	・作業の効率化による稼働時間の短縮（使用電力の削減） ・不使用機器の電源オフ ・集約配送効率の向上　など
本社・スポーツ工学研究所	・消灯、節電、エコドライブの継続 ・テレビ会議システムの活用による、出張にかかるCO_2の削減 ・製品輸送コンテナの容積率・充足率の向上 ・社屋の環境配慮設計、省エネ型照明への更新 ・グリーンカーテン設置による冷房の節約　など

CO_2排出量の推移



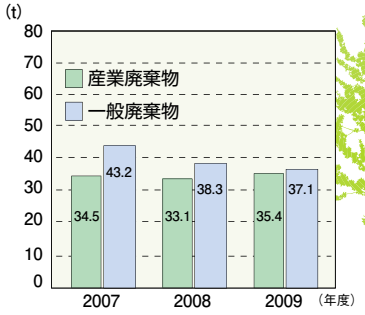
※国内グループ会社（38事業所）のデータです。
※データは、地球温暖化対策の推進に関する法律（温対法）に基づく係数を用いて算出しています。
※電力の排出係数は、0.555kg-CO_2/kWhを使用しています。

コピー用紙使用枚数



※本社、スポーツ工学研究所のデータです。

廃棄物量



※本社、スポーツ工学研究所のデータです。

海外グループの環境保全活動

環境マネジメントシステムを導入

アシックスヨーロッパB.V.の環境活動

■実施内容

・ISO14001の認証取得

ISO14001のマネジメントシステムを導入し、持続的な活動を進め、2010年３月に第三者監査を受けて認証事業所となりました。

ISO14001の登録証

・世界スポーツ用品工業連盟のＣＳＲ委員会に参加

アシックスを代表して世界スポーツ用品工業連盟（ＷＦＳＧＩ）のＣＳＲ委員会に参加し、環境分科会などで業界の環境問題解決のリーダーシップを発揮。その過程を通してさまざまなNGO・NPO、大学とコミュニケーションを図ってきました。

温室効果ガスの排出量を算出

アシックスアメリカコーポレーションの環境活動

■実施内容

・温室効果ガスの排出量を算出

外部機関の協力を得て、事業活動によって排出される温室効果ガスの排出量を算出し、分析しました。

分析に当たっては、排出元別に算出したデータを「温室効果ガス（GHG）プロトコル」によって３つの範囲に区分して、集計しました。

（１）直接排出の範囲：社有車の使用で排出される温室効果ガス

（２）間接排出の範囲：事業所での電気使用

（３）その他の間接排出の範囲：出張に伴う交通機関の利用、従業員の車通勤、水使用、ごみ処理

分析の結果、「その他の間接排出」が大半を占めることが分かりました（図１参照）。

また、排出元別に見ると、出張での航空機利用による温室効果ガスの排出比率が高いことが分かりました（図２参照）。

日本の調査にも活用

米州、欧州の活動結果から

アシックスアメリカコーポレーションによるこの調査は、日本では調査できていなかった「販売活動による温室効果ガス排出」の調査の必要性など、示唆に富むものでした。この結果を日本、欧州と共有してアシックスグループとして温室効果ガス削減に向けた目標設定と行動計画を策定する予定です。

図１：範囲区分別比率

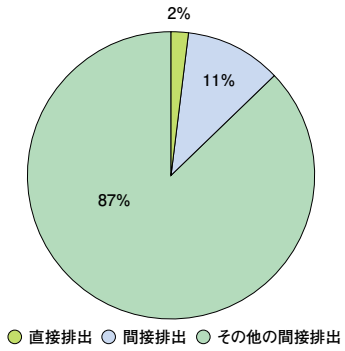
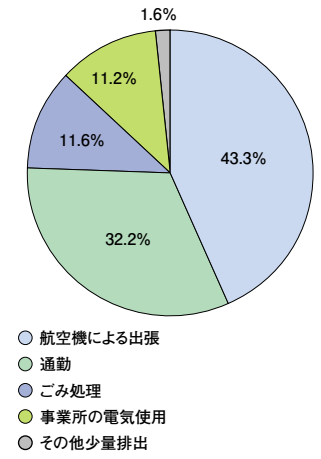


図２：排出元別比率



サプライチェーン管理

生産委託先工場の労働環境、労働条件の改善を進めています

作り手の満足が良い商品につながり、良い商品がお客様の満足につながるという考えの下、サプライチェーン全体にわたって環境、人権、労働、企業倫理などへの配慮と改善に努めています。

基本的な考え方

アシックスは、生産委託先工場の管理方針を次のように定めています。

良い商品を生み出すための管理基準

アシックス業務委託先管理方針（抜粋）

アシックスは、アシックス業務委託先が、以下の基準に従って事業を運営することを求める。

1. 一般原則

アシックス業務委託先は、その国及び地域のあらゆる法令その他の規制を順守して、事業を運営する。

2. 雇用基準

アシックス業務委託先は、その従業員の雇用に関して、以下の基準を順守するものとする。

(1) 強制労働

アシックス業務委託先は、強制労働を行わず、いかなる従業員にも、暴力、脅迫などの威嚇による労働を強制しない。

(2) 児童就労

アシックス業務委託先は、15歳未満（適用法で許可されている場合は14歳未満）、または雇用国で定める義務教育修了の年齢が15歳を超える場合は、その年齢より若い児童を雇用しない。

(3) 嫌がらせもしくは虐待

アシックス業務委託先は、従業員が、身体的、性的、精神的、あるいは口頭による嫌がらせや虐待などを受けない権利を有していることを認識し、従業員を、尊厳と尊敬をもって扱う。

(4) 差別

アシックス業務委託先は、採用、賃金、手当、昇進、教育、懲罰、解雇または定年などの雇用条件において、性、人種、宗教、年齢、身体障害、性的傾向、国籍、政治的思想、社会的もしくは民族などによる差別を行わない。

(5) 結社と団体交渉の権利

アシックス業務委託先は、自らの意思で従業員の団体を組織する権利及びそれに参加する権利並びに団体交渉の権利を認め、尊重する。

(6) 賃金

アシックス業務委託先は、従業員が働いたすべての時間に対して報酬を支払い、支払期間ごとに明確な賃金明細を従業員に配付する。アシックス業務委託先は、適用法に定める最低賃金、または業界の一般的な賃金のいずれか高い方を従業員に支払わなければならない。通常の労働時間に対する報酬に加えて、従業員に、適用法により法的に定められる料率、もしくはその国に該当する法律がない場合には、通常の労働時間に対する時給よりも高い料率での時間外労働に対する報酬を支払う。

(7) 労働時間

アシックス業務委託先は、従業員に、時間外労働時間を含め、通常の状態では週に60時間もしくは適用法に定める時間のどちらか少ない方を超える労働を要求しない。アシックス業務委託先は、従業員に、通常の状態では少なくとも7日ごとに1日の休日を与え、適用法により定められる有給年次休暇を与える。

(8) 手当

アシックス業務委託先は、従業員に、法的に定められた手当を与える。

(9) 健康及び安全

アシックス業務委託先は、適切な照明、暖房、換気システムの提供、火災、事故、危険な物質からの保護に限らず、安全かつ健康的な労働環境を提供し、従業員が、適切で清潔な衛生設備を常時使用できるようにする。宿泊設備を従業員に提供する場合には、同様の基準を適用する。

3. 環境

アシックス業務委託先は、環境に関して適用される法令その他の規制を順守するとともに、より一層の環境保全に努める。また、省資源、省エネルギー、廃棄物の確認、グリーン購入、汚染防止など、環境と安全に配慮した事業運営を行うものとする。

2009年度の活動総括

グループ会社全体の管理システムを再構築

2009年度の目標

これまで運用してきた委託先工場の管理システムを改善、充実させ、グループ会社全体のシステムとして再構築しました。国内外の国際機関・政府・市民団体・業界団体などのマルチステークホルダーとの連携を深め、限りある企業資本の効果的運用を図り、委託先工場の労働条件の改善に取り組みました。

委託先工場への多角的な活動を展開

2009年度の主な活動

①工場監査を43工場に対し実施しました。
②教育訓練を中国及びベトナムで実施しました。また、アシックス業務委託先管理方針の周知と従業員からの苦情や意見を改善に生かすための仕組み作りを進めました。
③一部の工場で、管理者の環境意識を調査しました。
④人権・労働環境改善に向け、日本のブランドメーカーが協議するコラボレーション会議に参画し、ワーキンググループのリーダーとして、工場が抱える解決が困難な問題について議論の場を設けました。2010年６月には、アシックス本社でブランドコラボレーション会議が開催されることになっています。

３種類の監査を実施

年度別監査

2009年度も自社監査、委託監査、ＦＬＡ監査の３種類の監査※を実行しました。

監査実績

監査年	自社監査	委託監査	ＦＬＡ監査	計
2005年	50	–	2	52
2006年	15	6	8	29
2007年	31	27	11	69
2008年	34	36	8	78
2009年	10	23	10	43

監査チェックシートに基づいて順法状況を評価

監査項目

「アシックス業務委託先管理方針」に沿って、労働契約、賃金、労働時間管理など118項目からなる監査チェックシートを作成。同シートに基づいて監査し、その工場での順法状況を評価しています。

監査チェックシート

大分類	中分類	小分類
契　　約	6	34
賃　　金	4	10
労働時間	3	9
休日/休暇	2	6
福利厚生	1	6
労使関係	5	13
安全衛生	7	39
そ の 他	1	1
合　　計	**29**	**118**

※3種類の監査

①自社監査
アシックスのCSR担当者が監査員として委託先工場を訪問し、労務管理、労働安全衛生面、環境保全に関する経営陣へのインタビューや資料の確認をします。監査時には、「アシックスの理念」、「アシックスのビジョン」、「アシックス業務委託先管理方針」で述べられている内容を経営陣に説明し、世界の情勢や動向も踏まえながら互いの意識レベルを合わせるようにしており、そのうえで問題点の抽出、改善へのアクションに移るようにしています。

②委託監査（監査会社に委託）
アシックスが専門の監査会社に依頼して行う監査で、プロの監査員が現地語で工場の実情を確認します。工場外での聞き取り（オフサイトインタビュー）などを通じ、自社監査では集め切れない従業員の声などの情報を得ることができます。当社はその監査報告と自社監査結果との整合を確認し、改善につなげています。

③FLA監査（NPO監査）
アシックスは、労働者の権利保護と労働環境の改善にグローバルで取り組むNPO「公正労働協会（FLA）」に、2006年、日本企業として初めて加盟しました。FLAは企業やNGO、大学が参画する団体で、ILO憲章にのっとった独自基準を持ち、それに基づき、無作為に選んだ委託先工場を監査しています。監査結果はアシックスに報告されるとともにウェブサイトでも公開され、公正さと透明性が保たれています。
当社は、その監査結果を工場にも報告し、ともに改善を進めるようにしています。

ＦＬＡのホームページ
http://www.fairlabor.org/

アシックス委託先管理方針の説明会

委託先管理方針の周知

中国及びベトナムの工場で、それぞれ１回ずつ「アシックス業務委託先管理方針」に関する説明会を実施。アシックスのＣＳＲについてのより深い理解につながりました。研修後のアンケート調査では、追加の研修を望む声も多く好評でした。

「アシックス業務委託先管理方針」に関する説明会

工場で実施した研修カリキュラム例

(1) アシックス業務委託先管理方針の説明
(2) CSRの歴史
(3) グループ討議
・CSRの実践により工場が得ることは何か?
・CSRの実践に障害となっていることに何があるか?
(4) 社会保険対応
(5) 従業員の声をどのように聞き取り参画させるか
(6) 改善を維持し続けるにはどうするか。
(7) 質疑応答
(8) 研修まとめ

管理者や担当者を対象に

委託先工場の教育訓練

①委託先工場の苦情処理能力を高めるための教育訓練を中国とベトナムの工場で実施。５工場のＣＳＲ担当者・人事総務担当者14人が参加しました。

②工場幹部、管理部門、労働組合役員を対象に、一般従業員とのコミュニケーションの能力の向上を目指した教育訓練を行いました。

アシックスヨーロッパB.V.の活動

2009年度はＣＳＲプログラムを見直し改善に努めました。その結果、より明確なＣＳＲ戦略をアシックスヨーロッパB.V.内で構築できました。委託先工場の労働環境監査だけではなく、環境保護、社会責務への自覚を組織内に浸透させることを目標にしています。

また、外部データベース「ＦＦＣ」※を使ったサプライチェーン管理トレーニングの実施など、外部のノウハウも活用して仕組みの構築を図っています。

※ FFC: Fair Factories Clearinghouseの略。
工場のコンプライアンス情報を共有できるようネット上で構築されたメンバー限定のデータベースです。新たな工場を探す場合や、使用している工場のコンプライアンス評価を実施する場合に有効なプラットホームです。

アシックスアメリカコーポレーションの活動

ＦＬＡの理事会メンバーとして、ＦＬＡの運営に寄与する活動をしています。社内では、アパレルの調達担当者対象のＣＳＲプログラムの研修を月次のミーティングを通じて実施しました。ＣＳＲ担当者は自社の工場監査情報の見直しを週単位で行いました。

従業員満足

働きやすい職場作りを進めています

すべての従業員が能力を発揮でき、仕事と生活の両立ができる職場作りを目指します。
制度面の整備のほか、従業員参加型の取り組みも進めています。

各種制度の充実

ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて

「労働時間に関する総合プログラム」を推進

2007年から「労働時間に関する総合プログラム」を推進しています。

労働時間管理により、法令を順守し、ワーク・ライフ・バランスに積極的に取り組む先進企業となることを目指しています。勤怠管理システムの改善や労働時間管理データベースの整備のほか、業務の進捗状況を確認するための施策などを実施。更に変形労働時間制の導入により、業務の繁閑に合わせた労働環境作りを図りました。今後は、タイムマネジメント研修の実施などで、更なる業務効率の向上を図ります。

働き方の多様性への対応

育児・介護制度の整備

2007年に引き続き2009年も厚生労働省の次世代認定マーク「くるみん」を取得しました。これは、積極的に子育て支援策に取り組んでいる企業として認定されたことによるものです。

グローバルに活躍できる人財を育成

海外実務研修制度

若手従業員を中心に海外関係会社及び海外事業所に１年間派遣する海外実務研修制度を導入しており、2009年度は３人を派遣しました。また、アシックスヨーロッパB.V.からも、2007年度以降毎年２人の研修生を受け入れています。

従業員の子どもによる職場訪問

キッズウエンズデー

従来の「子ども参観日」（小学校３年生以下対象）に加え、小学校４年生以上の従業員の子どもを対象にしたイベントを企画。従業員の家族が当社の歴史や思いに触れ、そして従業員が定刻どおり仕事を終えて子どもと一緒に退社しワーク・ライフ・バランスを実践する場となりました。

キッズウエンズデーに参加した子ども

公平性、透明性、納得性のある制度に

多面評価制度や複線型人事制度など

部下・上司・同僚が管理職を評価する多面評価制度や、専門性の高い研究職及び技術職の働き方にも対応する複線型人事制度、必要な人材を社内から募る社内公募制度、希望分野を従業員自らが申し出るエントリー制度、異動や仕事に対する自分の考え方などを申し出る自己申告制度などの導入により、柔軟性のある人財（人材）活用を図っています。

法律を上回る主な制度

育児休業制度
子どもが2歳に達する日まで取得可能（法律では最長1年6カ月）

介護休業制度
最長1年間（法律では最長93日）

育児短時間勤務制度
小学校3年生の終了時まで取得可能（法律では小学校就学前までが努力義務）

短時間フレックスタイム制度
育児・介護を目的として所定労働時間が1時間短いままフレックスタイム制度を利用可能。

看護休暇制度
小学校3年生の終了時まで1年間に10日間の休暇を取得可能。
（法律では1人目は5日、2人目は10日）

介護休暇制度
要介護状態の対象家族に対して1人目から1年間12日の休暇を取得可能。
（法律では1人目は5日、2人目は10日）

積立有給休暇制度
法律では、2年で時効消滅してしまう年次有給休暇を80日まで積み立てることができる制度。育児・介護・看護及び不妊治療のために利用可能。

時間単位年休制度（2010年4月から）
年次有給休暇を1時間から取得できる制度を開始しました。これまでは1日か半日かの2通りの年次有給休暇でしたが、さらに選択肢が増え、有給休暇が柔軟に取得できることで有給休暇の取得促進を目指します。
※年次有給休暇のうち5日分40時間を上限に1時間単位で取得可能。

次世代認定マーク「くるみん」

カラダとココロの健康づくり

職場でのラインケアも強化

メンタルヘルス対策

主に社員面談などの個別対話によってメンタルヘルスに関する知識の普及や個別の事例への対応をしています。2009年度は、更に全社安全衛生委員会の議題に取り上げたほか、一部事業所で管理監督者対象にラインケア（管理監督者が日常のマネジメントの中で職場環境の改善や従業員の心の健康管理をすること）の研修をして、意識レベルの向上を図りました。

今後は、特にラインケアを重視し、系統立った全社的な活動にしていきます。

個別対応と全体アプローチの組み合わせ

メタボリック症候群対策

社員面談での個別指導で、予防段階での早期対処ができるようにしています。定期健康診断の結果に合わせた対応や継続的な保健指導にも有効です。2009年度は１カ月間の歩数を競うウオークラリーを全社員の自由参加で開催しました。

こうした全体の底上げを図る施策にも今後取り組みます。

意識向上に向け禁煙イベントを実施

喫煙対策

「禁煙デー」を国内グループ会社でも実施したほか、「禁煙マラソン」も参加の枠を広げ、タバコと健康に関する情報発信の機会増を図りました。今後も受動喫煙を含めた喫煙の害についての社員の意識向上に努めます。

禁煙デー参加事業所

2004年度	本社
2007年度	本社
2008年度	本社・関東支社・関西支社・スポーツ工学研究所・北海道販売・東北販売・関越販売・中四国販売（広島・四国）
2009年度	国内全事業所と広州、台中

ウオークラリー参加実績

	出場者数	参加事業所
2010年2月	19人	4
2010年4月	48人	5

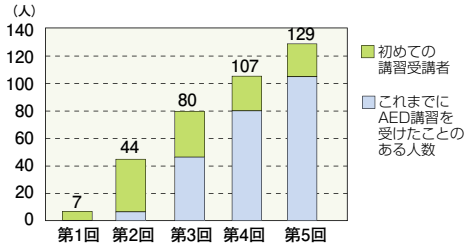
禁煙ポスター

身近で起こる「もしも」への備え

ＡＥＤを使った市民救命士講習会

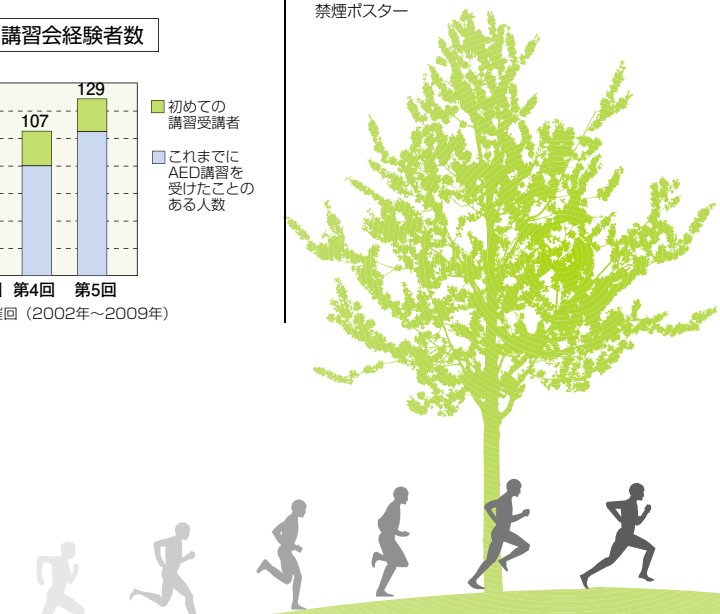
ＡＥＤ（自動体外式除細動器）の公共施設などでの設置が進み、除細動を受けた人の社会復帰率が上がったと言われます。本社などで実施していた市民救命士講習会を全社に広げ、社会にも貢献できる社員を育成していきます。

＜本社＞救命・AED講習会経験者数



救命・AED講習会　開催回（2002年～2009年）

本社での市民救命士講習会



社会貢献

スポーツ用品メーカーとしての社会貢献を目指しています

スポーツ文化の普及に努めるなど、良き企業市民として
社会貢献活動に積極的に取り組んでいます。

継続的に行われる地域社会とのかかわり

アシックスは、地域とのかかわりは非常に重要であると考えています。しかし、そのかかわり方は一過性のものではなく継続的なものでなければならないため、限られた経営資源の中、その取り組みには限界があります。私たちは一歩一歩着実にその範囲を拡大していきたいと考えています。

幅広い層が参加できるイベントを支援

スポーツの振興のために

(1)第4回東京マラソン
開催時期：2010年2月
申込者数合計：311,441人
出走者：35,028人
完走者：33,105人
完走率：94.5%

(2)第2回アシックス東北販社杯パークゴルフ大会
開催時期：2009年10月
参加者：102人

(3)第7回アシックスオープンパークゴルフ大会(北海道)
開催時期：2009年6月
参加者：延べ400人

(4)第17回アシックスカップ陸上競技大会(愛知)
開催時期：2010年3月
参加者：112団体、1,465人

(5)当社設備の一般開放(本社アトリウム)
兵庫県バスケットボール協会
NPO法人神戸アスリートタウンクラブ「卓球教室」

(6)スペシャルオリンピックス日本※
NPO法人スペシャルオリンピックス日本(SON)が開催する各種大会及び日常活動に、社員がボランティア参加

SON・兵庫　陸上競技会にボランティア参加

※ スペシャルオリンピックス(SO)
知的発達障害のある人たちに、さまざまなスポーツトレーニングとその成果の発表の場である競技会を、年間を通じ提供している国際的なスポーツ組織です。アシックスは2003年夏季世界大会・ダブリンからスペシャルオリンピックス日本への支援活動を行っています。

Voice

SON・兵庫　陸上競技会に参加して

SON・兵庫　陸上競技会に参加し今回で3回目になりました。それまでは、積極的にボランティアをする方ではありませんでしたが、たまたま同僚に誘われて参加したのがきっかけでした。

最初は、アスリートが突然予想できない行動をとることで戸惑い、レースの結果についてもあまり関心が向きませんでした。しかし、アスリートの無心に元気に挑戦する姿に接していると、彼らの挑戦のエネルギーが自分にも伝染して元気な気分になることができました。

今では募集があれば、自然に進んで参加しています。アスリートが自己記録を大幅に更新した時は自分のことのようにうれしくなりますし、表彰時の素直な喜びに接することが大きな楽しみとなってきました。これからも積極的に参加していきたいと考えています。

CSR推進室　中川　盛雄

森づくり街づくりに参加

環境保全のために

（1）「六甲山系グリーンベルト整備事業」※1に参加

時期：2009年10月

植樹前の下草刈り

（2）「ＫＦＴ街づくりクリーンアップ作戦」※2に参加

時期：2009年11月

清掃活動に参加した社員

教育支援や被災地支援などを実施

子どもの健全な成長のために

（1）トライやるウィーク※3への協力

地域の中学校の要請により、会社での職業体験活動に中学生を受け入れ

（2）2009年4月ＪＰＦ※4を通じてミャンマーのサイクロン被災の子ども、ヨルダンの難民の子どもに当社の体育衣料を寄付

トライやるウィークに参加した中学生

サッカー教室のイラクとヨルダンの子ども
©KnK/JPF

寄贈物資を確認する
ヨルダンの NPO スタッフ
©KnK/JPF

※KnK：認定 NPO 法人
国境なき子どもたち

未来世代へ伝えるために

アシックススポーツミュージアムでの活動

（1）ミニチュアシューズ作りを実施

（2）スポーツ環境校外学習に協力

（3）ＪＦＡの「夢の教室」※5に協力

（4）子どもスポーツ絵画展を開催

※1 六甲山系グリーンベルト整備事業

土砂災害に強く、自然豊かな森づくりを目的として、六甲山で実施されている砂防事業。アシックスは、本事業の「森づくり実施要領」に基づき、国有地内の活動地「ANIMA（アニマ）の森」で樹林整備を行っています。

※2 KFT　街づくりクリーンアップ作戦

KFT（神戸ファッションタウン・ネットワーク）が主催。当社が本社を置く神戸ポートアイランドの地域住民、大学、企業が一体となり、自分たちの街を美しくするための一斉清掃を行います。

※3 トライやるウィーク

兵庫県が推進する「生きる力の教育」のプログラム。阪神・淡路大震災（1995年）、神戸連続児童殺傷事件（1997年）などの悲惨な出来事をきっかけに、兵庫県が、中学2年生を対象として1998年度から実施している職場体験やボランティア・福祉体験活動。2009年度は369校、47,271名の生徒が参加しました。

※4 JPF

特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム。世界各地で発生している地域紛争や続発する自然災害によって多くの人々が犠牲となっています。このような国際世界情勢に応え、NGO、経済界、政府が対等なパートナーシップの下、三者一体となり、それぞれの特性・資源を生かし協力・連携して、難民発生時・自然災害時の緊急援助をより効率的かつ迅速に行うためのシステムが、国際人道支援組織「ジャパン・プラットフォーム」です。

※5 JFAの「夢の教室」

財団法人日本サッカー協会（JFA）が青少年の健全な育成を目的として行っている活動。夢や目標を持ち、懸命に努力することの大切さ、フェアプレーや助け合いの精神を育むため、サッカー日本代表やJリーガー、なでしこジャパンなどの現役選手やOB選手が「夢先生（通称ユメセン）」となって小学校の教壇に立ち、ゲームやトークで学ばせる活動です。

個人情報管理

個人情報を適切に管理・保護しています

お客様の財産である個人情報を大切に管理することを重要な責務と考え、
適切な管理・保護に取り組んでいます。

アシックスグループの個人情報管理体制

2009年度は、2008年度の活動に関しての「社長による見直し会議」で決定した「お客様からお預かりした個人情報を適切に管理、保護する」を目標に活動をしてきました。

具体的には、次の３点の実施計画を立案し、活動に取り組みました。

（１）個人情報の委託先管理の強化
（２）グループ会社の個人情報管理レベルの向上と教育の強化
（３）部署の責任者が中心になって部署の個人情報の管理レベルを向上させる

2009年度の実績

計　画	実　績	評　価	課　題	改善策
（1）個人情報の委託先管理の強化	委託先の調査を12月に実施 個人情報の授受の記録の徹底を図った	委託先の調査はすべて完了 授受の記録が取れてない部署があった	委託先の調査に時間がかかった 委託先管理についての理解度にばらつきが見られた	納期の厳守の徹底を図る 部署担当者への啓発を実施する
（2）グループ会社の個人情報管理レベルの向上と教育の強化	グループ会社の個人情報の管理レベルの現状把握を行った	個人情報の取り扱いの多い３社の現状が明確になった	現状把握はできたが具体的な研修ができなかった	３社に対し研修計画を立案し実施する
（3）部署の責任者が中心になって部署の個人情報の管理レベルを向上させる	個人情報内部監査に参加し部署の現状について積極的に回答した	全部署の責任者が内部監査に出席した	部署責任者の理解度にばらつきが見られた	個人情報内部監査時の指摘事項を改善するよう啓発する

2009年度の実施事項を「社長による見直し会議」で報告し、2010年度の活動計画が立案されました。この目標に向かって活動を続けていきます。

[2010年度の活動計画]

（１）個人情報にかかわりの多い営業部門の教育を優先して実施する
（２）グループ会社向けの個人情報セミナーはリスクの高い３社を優先し実施する

個人情報管理方針

（株）アシックスは、個人情報を大切に管理することを重要な責務と考え、以下の項目について十分に注意を払い、個人情報の管理に努める所存です。

1. 当社は、各種スポーツ用品及びレジャー用品の製造・販売を主要事業と致しておりますが、このような事業の内容及び規模を考慮して適切に利用目的を特定するとともに、その範囲内で個人情報を取得、利用及び提供致します。
2. 特定された利用目的の達成に必要な範囲を超えた個人情報の取扱いを行わないとともに、そのための措置を講じます。
3. 個人情報の漏えい、滅失またはき損の防止及び是正に努めます。
4. 個人情報に関する法令、国が定める指針及びその他社内外の規範を遵守致します。
5. 苦情及び相談を受け付けた場合は、適切かつ迅速に対応致します。
6. 個人情報を適切に管理、保護するためのマネジメントシステムを構築し、継続的改善に努めます。

制定日　2005年4月1日
改定日　2008年2月8日
株式会社アシックス
代表取締役社長　尾山　基

プライバシーマーク

コーポレート・ガバナンス

健全で透明性の高い経営に努めています

企業価値を継続的に高め、すべてのステークホルダーから信頼されるために、アシックス行動規範、アシックス自主行動基準の適切な運用やコンプライアンス施策の強化などにより、コーポレート・ガバナンスの充実を図っています。

コーポレート・ガバナンス体制の概要

アシックスは、重要な意思決定事項については、株主総会で選任された取締役で構成される取締役会に付議または報告することを、取締役会規程及びその他関連規程に定めています。

また、取締役会の決議事項その他重要事項の事前審議を行うため、常務会を設置しています。当社グループの全社経営戦略にかかわる重要事項の検討・決定と業務執行状況の報告を行うため、国内経営執行会議、グローバル経営執行会議を定期的に開催しています。それらの会議は、取締役、監査役、執行役員及び各子会社取締役などが適宜出席しています。

当社は監査役会設置会社であり、監査役5人のうち3人が社外監査役です。監査役は、毎月開催される取締役会及び監査役会に出席するほか、必要に応じて取締役との会合を持ち、また、重要書類、データベースの閲覧などにより経営全般に関する情報を収集しています。監査役は、内部監査部門に所属する使用人に、監査業務に必要な事項を命令することができます。また、監査役と内部監査部門は、監査に必要な情報の交換を行っています。なお、監査業務を行う使用人は、その命令の範囲に属する業務に関して取締役の指揮命令を受けないこととし、人事異動・人事考課・懲戒処分は、監査役会の事前の同意を得るものとしています。

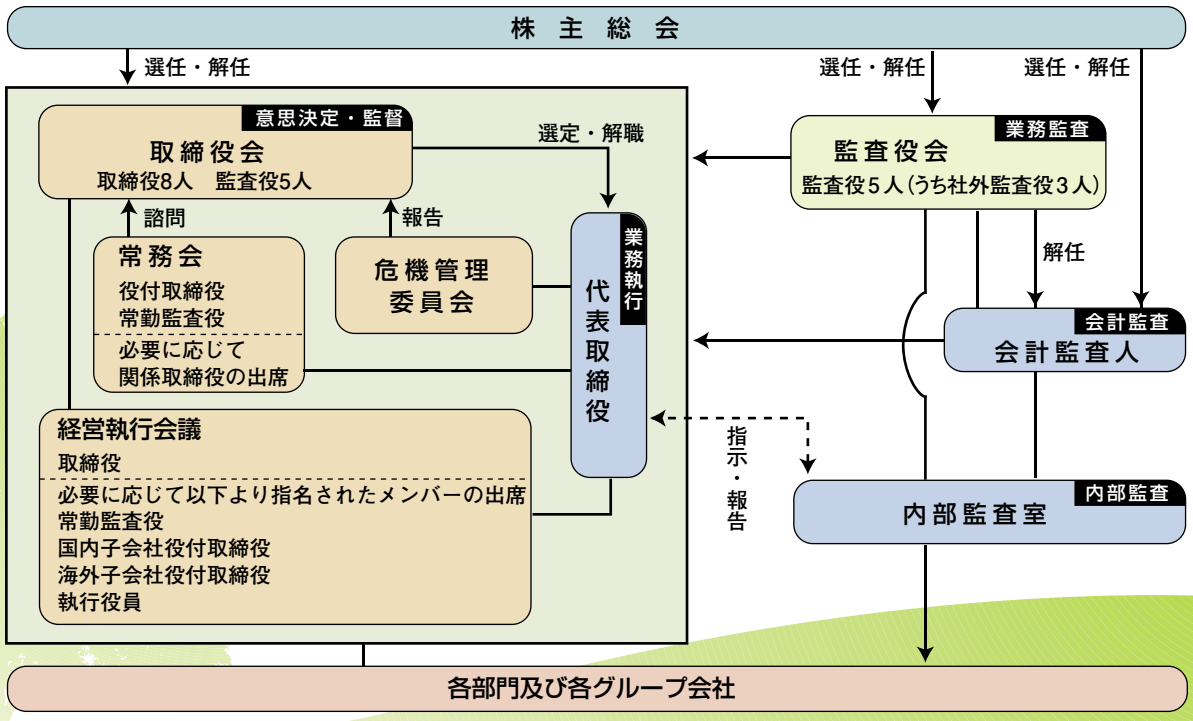
コーポレート・ガバナンスの基本的な考え方

2009年6月19日　ガバナンス報告書から抜粋（原文）

1.基本的な考え方

当社グループは、企業価値を継続的に高め、株主をはじめ、すべてのステークホルダーからさらに信頼される会社となるために、スピードある透明性の高い経営を実現するためのコーポレート・ガバナンスを目指し、その中で経営管理体制の整備を行うとともに、企業経営に関する監査機能・内部統制の充実、コンプライアンスの徹底、経営活動の透明性の向上などに努め、株主の視点を経営に反映させることを心がけております。

コーポレート・ガバナンス体制



内部統制[※1]

2009年度は監査法人による内部統制監査で「無限定適正意見[※2]」を得ることを目標としました。その目標を達成するために実施計画を立案し活動に取り組みました。

2009年度の実績

計　画	実　績	評　価	課　題	改善策
金融商品取引法の内部統制報告制度に基づき、財務報告の信頼性確保に努めるとともに、組織目標の達成を阻害する要因であるリスクの抽出と評価、内部監査、業務プロセス管理の明確化等、さまざまな取り組みを強化し、ガバナンスの水準を高める努力をします。	アシックス本社を含む内部統制の対象となる子会社、グループ会社に関する「内部統制報告書」を作成し、監査法人から平成22年３月31日現在の財務報告に係わる内部統制について重要な欠陥は発見されないとの監査結果を得ることができる見込みです。	2009年度の最終評価について、監査法人から「無限定適正意見」を得ることができる見込みとなっています。	内部統制維持管理組織に基づき、管理部署を設定しましたが、販売管理や在庫管理など業務プロセスを担当する各現場においては、内部統制の整備、運用に対する意識が高いといえる状態ではありませんでした。	各業務プロセスの内部統制担当者に対する内部統制業務の意識付けを行い、整備、運用評価が問題なく実行される状況になるよう推進していきます。

2010年度は、2009年度の経験を生かし、ＡＣＰ[※3]にのっとり、内部統制強化のためにアシックスグループ全体の意思決定や業務プロセス等の維持管理体制を構築し、継続して「無限定適正意見」を得ることを目指します。

※１：内部統制
「事業目的に沿って会社を組織的に運営していくための経営管理体制」のことで、業務の有効性及び効率性、財務報告の信頼性、事業活動にかかわる法令等の順守、資産の保全、という４つの目的を達成するために業務に組み込まれ、組織内のすべての者によって遂行される仕組みのこと。

※２：「無限定適正意見」
経営者が決定した評価範囲、評価手続き、及び評価結果が適正に内部統制報告書に表示されている場合に監査法人が表明する意見のこと。

※３：ACP
アシックスの中期経営計画「アシックス・チャレンジプラン」の略。（３ページ参照）

企業行動のあるべき姿を規定

アシックス行動規範

当社は、経営の基本的な考え方である「創業の哲学」、「アシックスの理念」、「アシックスのビジョン」を基に、「アシックス行動規範」を制定しています。企業及び役員や使用人一人ひとりの行動規範を、主に順法活動及び企業倫理の観点から定めたもので、すべての人々から受け入れられ尊敬される企業行動の基本姿勢を示しています。

その主旨の徹底を図るため、コンプライアンス担当部署を置いています。同部署がコンプライアンスへの取り組みを総合的、横断的に統括し、役員及び使用人の適正な業務運営を補佐するとともに、研修などを通した教育、指導を行いました。2010年度も引き続き研修を実施する予定です。

アシックス行動規範

1.趣旨および適用範囲

「アシックス行動規範」（以下「規範」という）は、当社のすべての役員（これに準ずる者を含む）および従業員（以下「私たち」という）が、当社のもつ社会的責任を深く自覚し、あらゆる企業活動の場面において関係法令の遵守を徹底し、社会倫理に適合した行動をとることが当社の健全な発展のために不可欠であるとの認識の下に、私たちが日常の業務遂行において遵守すべき事項を定めるものとします。

2.基本姿勢

1. 私たちは、あらゆる企業活動において、法令や国際ルールとそれらの精神およびこの規範を始めとする社内規程を遵守し、グループとしての企業活動が正しく営まれ、社会倫理に適合したものとなるよう努めます。
2. 私たちは、あらゆる企業活動において、すべての人の基本的人権を尊重し、人種、民族、国籍、宗教、性別、年齢または障害の有無などの理由による差別や個人の尊厳を傷つける行為を行いません。
3. 私たちは、情報の適切な開示に努め、当社と利害関係をもつすべての者との間で公平・公正かつ透明な関係を維持し、公正な取引を行います。
4. 私たちは、会社の正当な利益に反する行為または会社の信用、名誉を毀損するような行為を一切行いません。
5. 私たちは、豊かな自然と共存し、地球環境や天然資源を守るために、環境と安全に配慮した企業活動を行います。

3.規範遵守の責任

1. 私たちは、この規範に定める事項を誠実に実行します。
2. 役員は担当する部門のすべての従業員を、また管理する立場にある従業員はその管理する従業員を、率先垂範の上で従業員がこの規範を遵守するよう指導、監督します。
3. この規範に従った企業行動の実施のため、グループ内の関係各部門は社内規程・行動マニュアルの制定、具体的な遵守事項の周知徹底、助言、指導その他必要な活動を展開します。
4. この規範に反するような事態が発生したときは、経営トップが自ら問題解決にあたり、原因究明、再発防止に努めます。
5. 私たちは、企業と企業に属する私たち自身が社会からの信用と信頼から成り立っている事を心に留め、その責務を果たします。

21項目からなる行動基準を順守

アシックス自主行動基準

アシックスは、行動規範を具体化させた自主行動基準を制定し、役員及び使用人への周知を徹底し、順守を求めています。

具体的には、研修などを通して教育、指導を行いました。2010年度も引き続き研修を計画し、実施する予定です。

アシックス自主行動基準項目

1) お客様への誠実な対応
2) 品質管理の徹底
3) 商品に関する適正な表示・説明、広告
4) 公正・公平な取引の実行
5) 節度ある接待・贈答の順守
6) 反社会的勢力との関係の断絶
7) 適切な広報活動の実施
8) 情報の適時・適切な開示
9) インサイダー取引の禁止
10) 守秘義務の順守
11) 会社財産の保護
12) 知的財産権の保護・尊重
13) 責任ある業務遂行
14) 公私の峻別(しゅんべつ)
15) 健全かつ安全な職場の維持
16) 人権の尊重
17) プライバシーの保護
18) セクシュアル・ハラスメントの禁止
19) 海外での法令順守、風習・習慣・文化の尊重
20) 環境に配慮した事業活動
21) 社会貢献

内部統制評価から業務改善提案まで

内部監査

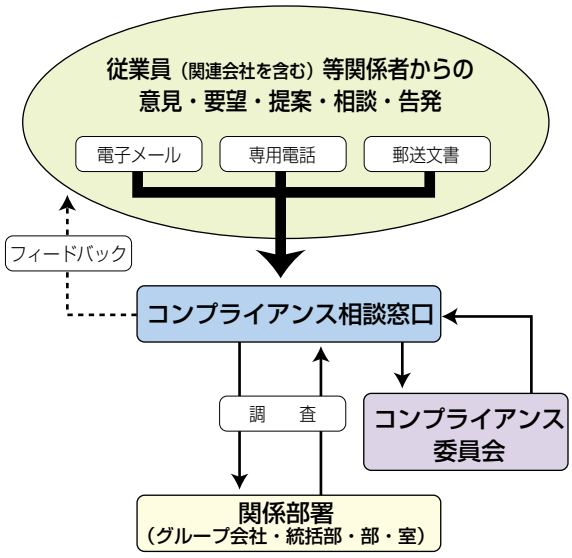
2009年度、内部監査室は内部統制評価業務及び監査業務を海外、国内のエリア別に担当するチーム体制でしたが、これまで内部統制プロジェクトが担当していた内部統制評価業務を内部監査室が担当した初年度でもあったことから、監査業務への人的資源の投入が結果的に不足がちとなりました。

2010年度は内部統制だけではなく、本来の業務監査を含む内部監査ができる体制に組み直し、内部監査の充実(業務改善提案をする)を図っていく予定です。

スピークアップライン

当社グループを対象としたコンプライアンス相談窓口「スピークアップライン」を設置し、役員及び使用人が行動規範や自主行動基準を逸脱する行為や、その他コンプライアンスに関する重要な事実を発見した場合の連絡・相談を直接、専用メール、電話、手紙で受け付ける体制を敷いています。これにより事態の迅速な把握及び是正を図ります。なお、この窓口への通報者が不利益な取り扱いを受けないよう配慮がなされています。

スピークアップラインのフロー



コンプライアンス活動(継続実施事項)

社員がいつでも確認できるよう社員手帳の別冊に「行動規範」、「自主行動基準」、「個人情報管理方針」、「スピークアップラインについて」を記載。
新規学卒採用者(アシックスグループを含む)の研修(参加者52人)でCSR教育の一環として、コンプライアンスおよびセクハラ・パワハラに関する教育を実施(4月3日)
中途採用者の研修(参加者26人)でCSR教育の一環として、コンプライアンスおよびセクハラ・パワハラに関する教育を実施。(11月13日)
中途採用者の研修(参加者32人)でCSR教育の一環として、コンプライアンスおよびセクハラ・パワハラに関する教育を実施。(12月18日)

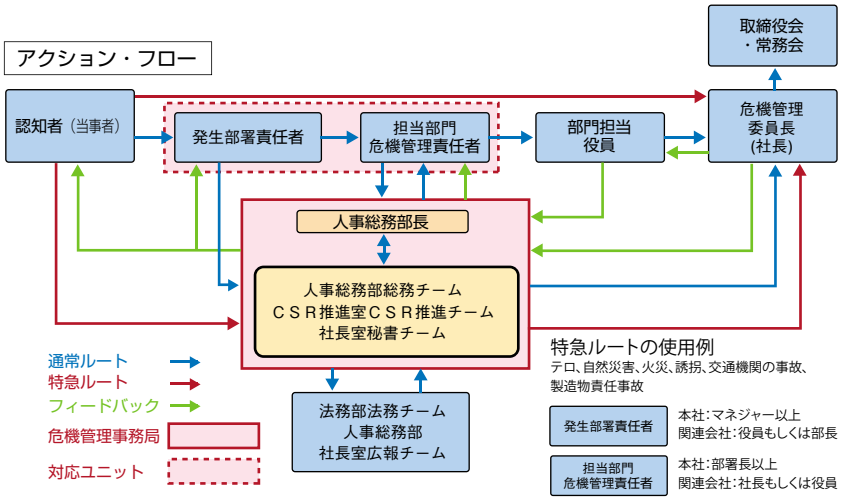
危機管理体制

アシックスグループは、危機が発生した時及びその可能性が予測される時における会社の損失の最小化を目的に、発生時の基本的な対応、行動がとれるよう危機管理規程を制定し、次の体制を整備しています。

●当社グループの役員及び使用人が危機項目を認知した際には、危機管理規程に定められた方法及び経路で危機管理委員長（社長）に報告を行うとともに、取締役会に報告する。

●危機が発生した場合、危機管理規程にあらかじめ定められた危機レベルに応じて、危機管理委員長が危機対策本部の設置及び危機対策本部長の任命を行う。危機対策本部長は、危機対策方針等の決定及び対外交渉等を統括し、対策・改善策等を実施する。

●危機管理委員会は、危険の定期的な洗い出し、予知・予防、教育等の立案・実施及び危機管理・危機対策の評価などを行い、危機管理委員会事務局は、グループ全体のリスクを網羅的、統括的に管理し、内部監査部門は定期的に危機管理状況を監査する。



2009年4月、新型インフルエンザの世界的な流行の可能性がWHOから発表され、事業継続と社会責任の見地から防疫体制を全社的に敷きました。

今回の対応の経験を生かし、他のリスクについても点検し、危機管理体制を強固なものにしていきます。

パンデミックへの予防措置として

新型インフルエンザ等への対策

2009年度は、パンデミックに備えて、感染予防に必要な備品（マスク、消毒薬など）の備蓄、緊急連絡網の再整備をしたほか、ＩＴインフラ強化により在宅勤務を可能にするなど事業継続に必要な体制の整備をしました。

新型インフルエンザの予防措置

知的財産保護

ビジネスのグローバル化に伴い、当社知的財産権を侵害する行為も増加していることから、ブランド価値が損なわれるのを防ぐための知的財産保護活動をグローバルで展開しています。

近年、発展途上国での模倣品製造や世界各地での模倣品販売が多発しており、その監視と摘発を強化しています。

2009年度からは、模倣品の多さとブランド価値への悪影響について社内の認識を高めるため、模倣事例を展示する場を定期的に設けています。会場では、当社がどのような対策を講じているかについても紹介しています。

模倣品を少しでも減らし、お客様に安心して当社の商品を買っていただけるよう努めます。

社内での模倣品の展示

株主・投資家とのかかわり

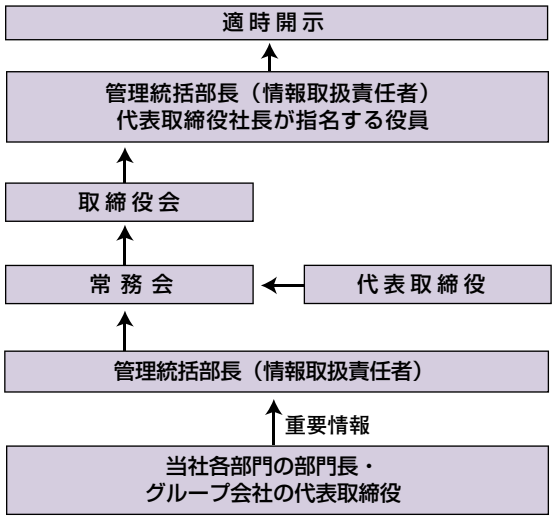
経営の透明性を確保するために

適時開示体制

アシックスは、投資家への適時・適切な会計情報などの開示が、健全な証券市場の根幹をなすものであることを十分に認識するとともに、常に投資家の視点に立った迅速、正確かつ公平な情報開示を適切に行えるよう社内体制の充実に努めており、今後も真摯(しんし)な姿勢で臨みます。

なお、証券取引所に開示した情報は、速やかに当社ホームページに掲載しています。

適時開示のフロー



当社をよく理解していただくための取り組み

コミュニケーション

■株主・投資家の皆様とのコミュニケーション

当社の企業姿勢をよく理解していただくためにアシックス通信(日本語)を半期に１回、アニュアルレポート(英語)を年に１回発行しています。

またインターネットの当社ホームページには「投資家情報」として有価証券報告書を始めとする情報を掲載しています。

当社ホームページの投資家向け画面

アニュアルレポート

アシックス通信

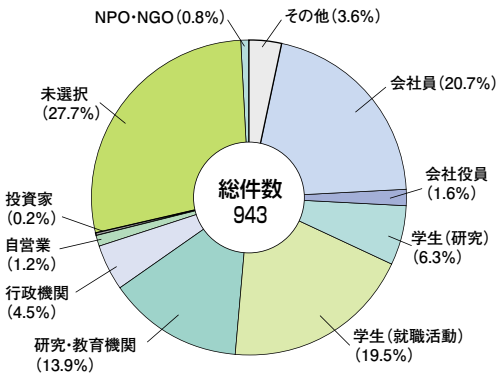
■マルチステークホルダーとのコミュニケーション

多様なステークホルダーの皆様に当社をよく理解していただくため、企業の経済的な側面の情報だけではなく、環境の側面と社会的側面についても記述したＣＳＲレポートを年に１回発行しています。

■インターネットを通じてのCSRレポートの配付

当社は「エコほっとライン」のホームページに登録企業として参加し、ステークホルダーの皆様がウェブサイトから当社の最新CSRレポートを無償で入手できるようにしています。

インターネットを通じての配付先



事 業 概 要

世界市場での事業拡大を目指し、製品力・販売力を強化しています

アシックスグループは、全社戦略「アシックス・チャレンジ・プラン」を遂行しており、ランニング事業の強化・拡大を核として、世界市場で事業を拡大しています。

経営・財務指標

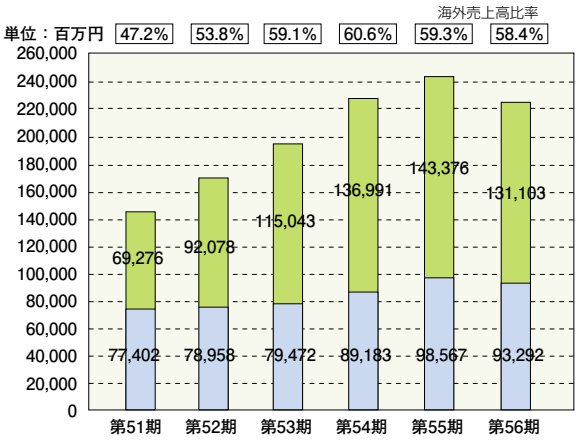
スポーツ用品業界につきましては、健康志向によるスポーツへの関心の高まりが見られたものの、消費者の購買意欲の低迷による影響は大きく、厳しい経営環境が続きました。

このような情勢の下、当社グループは、グローバルレベルにおいて、引き続きコア事業であるランニング事業の強化を図るとともに、アパレル事業の拡大を目指し、高機能・高品質の製品を市場に投入するなど、製品力の強化に努めました。

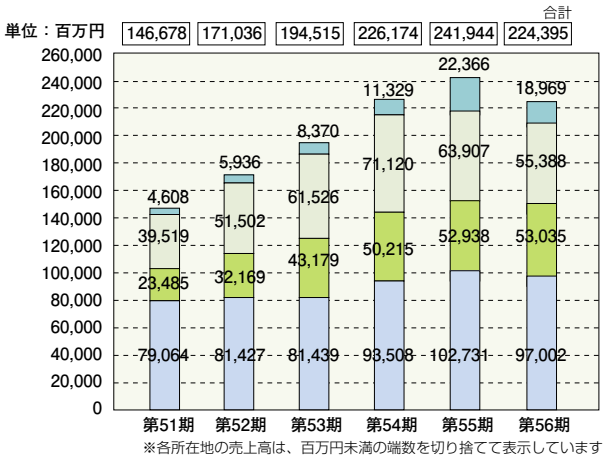
マーケティング面におきましては、アシックスブランドの認知度及び企業イメージの向上を図るため、ベルリンで行われた世界陸上競技選手権大会やバンクーバーで行われたオリンピック冬季競技大会において、各種競技のトップアスリートなどに当社製品を提供しました。また、オフィシャルスポンサーとして、「東京マラソン2010」、「ニューヨークシティマラソン」、「パリマラソン」、「ゴールドコーストマラソン」などの各国のマラソン大会においても、参加ランナーに対して情報及びサービスを提供しました。更に、「sound mind,sound body(サウンドマインド・サウンドボディ)」という企業スローガンを採用したグローバルブランドキャンペーンを引き続き展開しました。

販売面におきましては、北欧における販売拡大を目指し、アシックススカンジナビアAS及びその子会社を連結子会社としました。また、当社グループの旗艦店として、米州では「アシックスストアニューヨーク」、アジア・パシフィックでは「アシックスストア台北」、国内でも「アシックスウオーキングショップ」をオープンするなど、販売体制の強化に努めました。

国内海外売上高推移



所在地別売上高推移

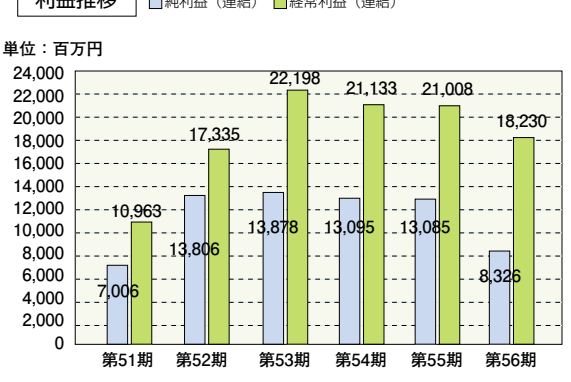


※各所在地の売上高は、百万円未満の端数を切り捨てて表示しています

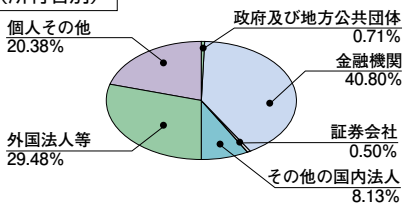
株式状況　(2010年3月現在)

発行可能株式総数	790,000,000株
発行済株式の総数	199,962,991株
(うち自己株式	10,331,996株)
株主数	12,921人

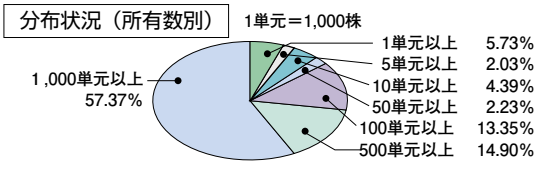
利益推移



分布状況（所有者別）



分布状況（所有数別）



詳しい財務情報は、当社ホームページの「投資家情報」ページをご覧ください。
http://www.asics.co.jp/

編集後記

アシックスは、チャレンジプランの下、グループ企業とともに、グローバルで事業展開してまいりました。

世界のお客様に満足していただける新商品の開発や価値あるサービスを提供し続けていくことがアシックスの使命であると考えております。

私たちは、さまざまな企業活動において、常に創業哲学やアシックスの理念にのっとり、一人ひとりの責務や存在意義を考え、行動や業務に生かしております。

また、私たちは、ステークホルダーとのコミュニケーションが重要だと考えています。

このCSRレポートで、アシックスの企業活動を取り巻く多くのステークホルダー、ビジネスパートナーの皆様に、アシックスの思いを感じていただければ幸いです。

今後とも、皆さまの信頼を得られるアシックスであり続けたいと考えております。

取締役執行役員・管理統括部長
佐野　俊之

私たちは、これまでも見やすく分かりやすいことを重視してCSRレポートを編集してまいりました。おかげさまで、2009年版で行ったアンケートでは大多数の方々から高評価を得ることができました。今回の2010年版では更に、ステークホルダーにとって必要な情報とは何かを意識して編集いたしました。

GRIのサステナビリティ・レポーティング・ガイドラインを参考にしながら、グローバルな視点でレポート内容を見直したのもその一環です。

4ページの対比表にまとめておりますとおり、報告すべき項目は相当網羅できておりましたが、パフォーマンス指標については、そのプロトコルに沿った形で十分に網羅することはできませんでした。この点は次回のレポートへ向けての課題として今後取り組んでまいります。

皆様の忌憚（きたん）なきご意見をお待ちしております。

CSR推進室一同

CSRレポート2009アンケート結果

Q1.レポート全般を読まれてどう感じられましたか。

内容について	人
大変分かりやすい	17
分かりやすい	64
少し分かりにくい	6
分かりにくい	1

アシックスのCSR活動について	人
かなり評価できる	13
評価できる	61
普通	13
あまり評価できない	1
評価できない	0

Q2.どのコーナーに興味を持たれましたか（複数回答）

項　目	人
トップコミットメント	36
CSRの基本的な考え方	20
特集:サプライチェーン管理	20
特集:環境配慮型商品	33
安全品質と顧客満足	37
コーポレート・ガバナンス	14
個人情報管理	8
環境保全	22
社会貢献	32
従業員満足	15
事業概要	10
編集後記	3

（選択式項目への有効回答数）

sound mind, sound body

未来が変わる。日本が変える。チャレンジ25

アシックスはチャレンジ25 キャンペーンに参加しています。

本レポートの対象範囲:
・期間:2009年度(平成21年度)　2009年4月1日から2010年3月31日まで
・組織:原則として株式会社アシックスの取り組みを紹介(一部でグループの取り組みも紹介)

発行日:
・2010年(平成22年)6月18日

本レポートに関するお問い合わせ先
株式会社アシックス　CSR推進室
〒650-8555　神戸市中央区港島中町7丁目1番1
Tel.078-303-1244　Fax.078-303-2211

株式会社アシックス
©ASICS　Corporation　2010.6.HN.(TP)　Printed　in　Japan

PRINTED WITH SOY INK
アロマフリー型大豆油
インキを使用しています。

ミックス品
FSC認証林及び管理された
森林からの製品グループです
www.fsc.org　Cert no. SA-COC-001196
© 1996 Forest Stewardship Council